

326  
297

宮崎縣鑛物調査報告

宮崎縣編



始



宮崎縣鑛物調査報告

32

29

326-297

我宮崎縣ハ鑛物豐富ナリト思惟セラレ、ヲ以テ之レカ探鑛ノ必要アリトシ大正三年十月二月縣會ヨリ意見書ヲ提出シタルコトアリ大正四年度ヨリ縣ニ鑛物調査吏ヲ設置シ成瀨善右衛門ヲ任用シテ先ツ炭鑛ノ調査ヲ行ヒ次テ金屬調査ヲ遂ケ大正五年九月一先ツ其調査ヲ完了セリ

先是福岡鑛山監督署ニ於テハ大正元年技師石川成章及技手齊藤定右衛門ヲ派シテ東諸縣、兒湯兩郡ノ調査ヲナシ次テ大正二年技手太布達七ヲ派シテ南那珂、北諸縣、西諸縣ニ郡ノ調査ヲ行ヒタルコトアリ大正五年十一月縣ニ於テ特ニ石川成章ヲ聘シテ本縣鑛物調査ヲ依託シ其ノ調査報告ヲ得タリ本調査ハ大体本縣鑛物ノ狀態ヲ明カニセルモ素白小乏ヲ以テ其ノ全豹ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス今只茲ニ其概要ヲ摘録シテ本縣鑛業上ノ參考ニ資ス

大正五年十二月

宮崎縣

大正  
6. 12. 19  
内交

# 宮崎縣鑛物調査報告目次

## 第一篇 序論

第一章 地形	一
第一節 山系	一
第二節 水系	三
第三節 港灣	五
第二章 地質	六
第三章 氣候	一
第四章 交通	二
第五章 鑛業沿革	三
第一篇 本論	
第一章 緒言	一五
第二章 東臼杵郡	一五



第一節	地位	.....	一五
第二節	地形	.....	一五
第三節	交通	.....	一七
第四節	氣候	.....	一七
第五節	地質	.....	一七
第六節	礦物	.....	一〇
<b>第三章 西白杵郡</b>			
第一節	位置	.....	一三
第二節	地形	.....	一四
第三節	交通	.....	一五
第四節	氣候	.....	一六
第五節	地質	.....	一六
第六節	礦物	.....	一九
<b>第四章 兒湯郡</b>			
第一節	位置	.....	三四

第二節	地形	.....	三四
第三節	交通	.....	三五
第四節	氣候	.....	三六
第五節	地質	.....	三七
第六節	礦物	.....	四一
<b>第五章 東諸縣郡</b>			
第一節	位置	.....	四五
第二節	地形	.....	四五
第三節	交通	.....	四六
第四節	氣候	.....	四七
第五節	地質	.....	四八
第六節	礦物	.....	五〇
<b>第六章 西諸縣郡</b>			
第一節	位置	.....	五二
第二節	地形	.....	五三

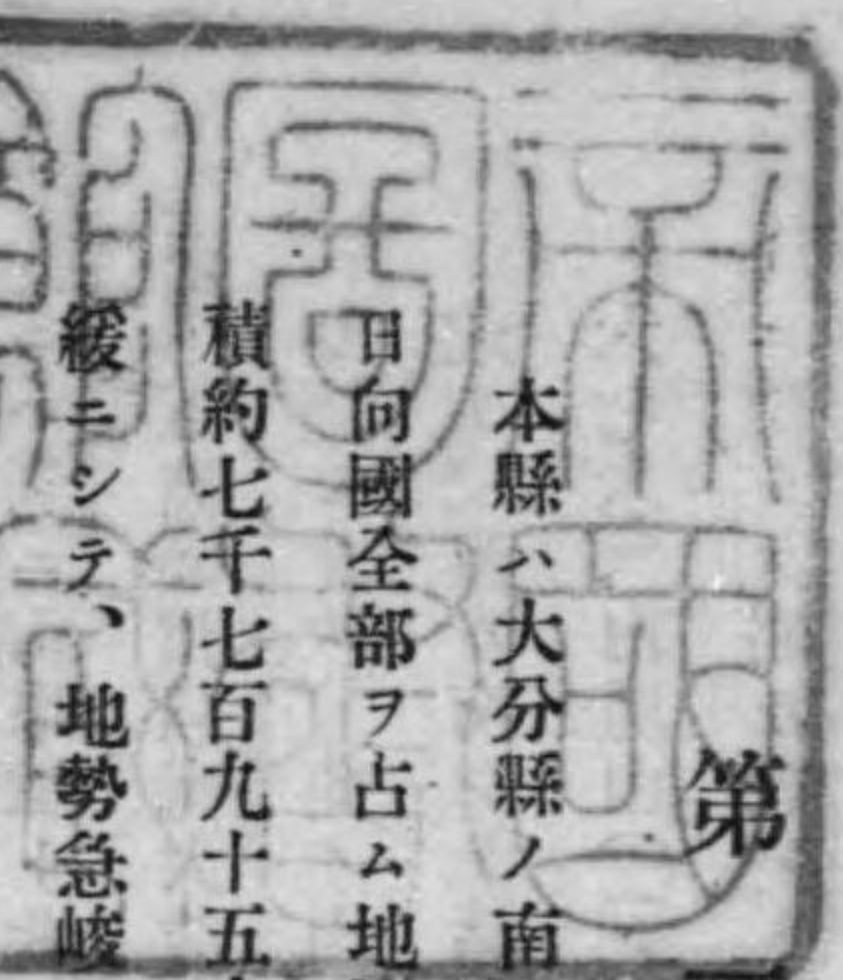
第三節	交通	五四
第四節	氣候	五四
第五節	地質	五四
第六節	鑛物	五九
第七章 北諸縣郡		
第一節	位置	六二
第二節	地形	六二
第三節	交通	六三
第四節	氣候	六三
第五節	地質	六三
第六節	鑛物	六六
第八章 南那珂郡		
第一節	位置	六七
第二節	地形	六七
第三節	交通	六九

第四節	氣候	六九
第五節	地質	六九
第六節	鑛物	七五
第三篇 結論		

# 宮崎縣鑛物調査報告

## 第一篇 序論

### 第一章 地形



本縣ハ大分縣ノ南ニ隣シ、西ハ熊本縣、西南ハ鹿兒島縣ニ界シ、東方ハ日向灘ニ面シ、南方有明灣ニ臨ミ日向國全部ヲ占ム地形南北ニ長ク其ノ長サ凡ソ百六十紵、東西ノ幅凡ソ七十六紵ニシテ、島嶼ト共ニ其ノ面積約七千七百九十五方紵ヲ領シ、九州第一ノ大國ナリ、北部ハ概シテ地勢峻嶮、山岳高ク聳エ、南部ハ傾斜緩ニシテ、地勢急峻ナルモノ少シ

#### 第一節 山系

九州山系ハ西南ニ走リテ、斜ニ九州中部ヲ横斷ス、該山系ハ其ノ主軸、西臼杵郡ヨリ肥後ノ國ニ延亘シ、天草群島ニ至ル、肥後トノ國境ニ於テ、殊ニ峻嶮ナリ、其ノ一支脈別レテ南ニ走ルモノヲ、日向山脈トイフ日向山脈ハ縣ノ南部中央ヲ縱走シ、尙遠ク南ニ向フ、九州山系ハ九州ノ東南半面ニ於テ著シク發達シ、殊ニ本縣ニ於テ山勢峻嶮ナリ、日向山脈ヨリ分岐セル支脈極メテ多シ、是等ノ地方著シク雨量ニ富ムガ故ニ、雨水、流水ノ浸蝕ニヨレル溪谷ノ發達極メテ著シ、西北部ノ山地ニ於テ此ノ狀態特ニ顯著ナリ、從ツテ本縣

ノ地勢ハ北部ヨリ西北部、及び中部ニ亘リテ最モ峻ニシテ次第ニ東方及び南方ニ至ルニ從ヒ其ノ高度ヲ減ジ  
遂ニ卓子原ヲ形成ス

五箇瀬以北ノ山地ハ四國山系ノ豊豫海峽ヲ越エ、豊後ニ現ハレ、更ニ南々西ニ連亘セルモノニシテ、此ノ  
豊後ノ國境ニアル山嶽ハ何レモ高峻ナリ、桑原山(一四〇七米)、傾山(一六〇四米)、本谷山(一六四二米)ア  
リ、西ニ延ビテ、肥後ノ境ニ近ク祖母山(一七五八米)ヲ起ス、コノ他、此ノ地方ニアリテ、山岳ノ著シキモ  
ノトシテハ釣鐘山(一三九五米)、丹助山(八一六米)、矢筈山(六五九米)、行藤山(八三〇米)等ニシテ、海岸  
ニハ別ニ海岸線ト北川谿谷トノ間ヲ走レル一山脈アリ、鐘野山(六四五米)其ノ主峯タリ

五箇瀬川以南大淀川以北ノ地ハ日向山脈ノ東北ヨリ西南ニ連亘セルアリ、此ノ山脈ハ數多ノ横谷ニヨリテ  
切斷セラル、此ノ山脈ハ二條統系ノニ分カル、其ノ一ハ西臼杵郡、五箇瀬川南岸ニアル高城山(九〇一米)ニ  
起リ、西々南シテ諸塚山(一三四一米)ニ至リ、東臼杵郡神門ノ北方ニ連リ西臼杵郡ノ南隅ナル菅原山(一三  
六七米)、市房山(一七二二米)ニ連亘シテ西南ニ走リ、猶西南ニ延ビテ肥後ニ入ル、其ノ二ハ此ノ連山ノ南方  
ニ位シテ略々之レト併走シ東臼杵郡山陰ノ北方ニ始マリ珍神山(八二三米)加子山(八六九米)ヲ經、兒湯郡ニ  
入リテ、地藏嶽(一〇八六米)神樂山(九九二米)龍房山(一〇二〇米)ニ連亘シ、天包山(一一八八米)石堂山(一  
一五四七米)ヲ起ス、而シテ兩山脈ハ略々地層ノ走向ニ一致シ、其ノ間ニ上渡川ノ縦谷及び田代ノ窪地アリ  
日向山脈ハ尙西南方ニ擴延シテ鰐塚山脈ヲナシ東嶽(八三九米)鰐塚山(一一一九米)、柳岳(九五二米)牛ノ

峠(六八三米)、小松山(九八八米)男鈴山(七八三米)等ヲ戴キ遂ニ有明灣ニ至リ海ニ入ル  
鰐塚山ノ東方ニ平行シテ連立セルモノハ雙石山脈ナリ、整然タル累層ヲ爲シ緩斜面ニシテ奇觀ヲ呈スルモ  
ノ多シ。

霧島火山脈ハ本縣ノ西南、大隅國ニ跨リ、高千穂ノ東麓御池ヨリ西北ニ至ル大小約三十個ノ火山ノ集マル  
ルモノナリ。

## 第二節 水系

河流ハ主トシテ古生層中生層等ヲ横斷セル横谷ヲ流ル、故ニ、急峻ニシテ屈曲多シ、從ツテ舟楫ノ便比較  
的少ク汎濫ノ憂多シ、中央部ヨリ以東ハ平野ニ出デ來ルヲ以テ、河幅廣ク傾斜緩ニシテ、岩石ノ露出少ク、  
水量多シ故ニ舟楫ノ便アリ。

河川ノ主要ナルモノハ北川、五箇瀬川、美々津川、大丸川、一ノ瀬川、大淀川、廣渡川、福島川ナリ北川  
ハ縣ノ東北境ヨリ源ヲ發シテ、古生層ノ間ヲ南流シテ東海灣ニ注グ。

五箇瀬川ハ源ヲ、熊本、大分兩縣境ノ高峰ヨリ發シテ、古生層ノ峻岳ノ間ヲ屈折シテ流レ七折村ニ至リテ  
稍大トナリ、尙古生層ノ懸崖ヲ幾多ノ奔潭ヲ作りテ、瀧下ニ來リ、ソレヨリ稍々緩トナリ、北方村ニ至レバ  
頗ル大ナル川トナリテ、緩ナル斜面ヲ洋々トシテ流ル、而シテ延岡町ヲ抱キテ二ツトナリ、延岡ノ東ニ海ニ  
注グ流程凡ソ三十三里アリ、川口ヨリ凡ソ十三里ノ間舟運ノ便アリ。



美々津川(又ハ耳川)ハ源ヲ熊本縣境ノ古生層ノ中ニ發シテ迂餘曲折シテ處々急斜面ヲ下リ、家代附近ニ至リテ幾多ノ支流ヲ合シテ稍大トナル、家代ヨリ下流ハ緩トナリ、水量多ク舟楫ノ便アリ、而シテ山陰ヲ經テ美々津ノ東ニテ海ニ注グ流程凡ソ二十里ナリ。

大丸川ハ椎葉村、鷹塚山ノ東面ニ發源シ中生層ヲ横斷シテ尾鈴山ノ西ヲ南々東ニ流レ木城ニ來リテ、東ニ曲リ、之レヨリ緩斜面ヲ緩流シテ高鍋ノ東方ニテ海ニ注グ流程凡十七里河口ヨリ石河内ニ至ル凡ソ七里ノ間舟楫ノ便アリ。

一ノ瀬川ハ鷹塚山ノ南ニ其ノ源ヲ發シ米良川ト稱シ、甚シキ岩石ノ峩々タル間ヲ南ニ直流シ村所ニ至リ板谷ヨリ來ル支流ヲ合セテ、板谷川トナリ、中生層ノ地層ヲ東々南ニ流レ、越ノ尾附近ニ至リテ、小川ヨリ來ル一大支流ヲ合セテ大トナリ、東ニ方向ヲ轉ジ瀬川ト爲リ、南々東ニ曲屈シ、穗北村ヲ貫通ス、之レヨリ斜面緩ニシテ、洪積層ノ丘陵地ヲ南々東ニ流レ佐土原ノ東ニ於テ注海ス、全長二十里内七里ノ間舟楫ノ便アリ 大淀川一名赤江川トイフ、日州第一ノ大河ナリ、源ハニアリ一ハ縣ノ西北部、熊本縣境ニ發源スル所ノモノニシテ野尻川ノ稱アリ、小林附近ノ火山岩層ノ高原ノ間ヲ流ル、諸水ヲ集メテ野尻ノ東南ニ至リテ南ヨリ來ル繩瀬川ト合ス、繩瀬川ハ縣ノ西南、鹿兒島縣境附近ニ發源シテ都ノ城附近ヨリ北諸縣郡ノ高原ヲ流ル而シテ諸水ヲ悉ク網羅シテ北流シ野尻ノ東方ニテ野尻川ト合流シ漸次大トナリ東ニ直向シテ高岡ノ南ヲ過ギテ尚東ニ向ヒ鞍岡ノ東ニ至リ綾北川、綾南川ノ合流タル綾川ヲ合セテ愈々大トナリ、南折シテ宮崎町ノ西ニ至

リテ東々南ニ轉ジ宮崎町ヲ過ギソノ東ニ於テ海ニ注グ流程約二十三里其ノ内十六里ノ間舟楫ノ便アリ。 廣渡川ハ源ヲ日向山脈ノ東側ナル高峰山假屋、大戸野ニ發シ南流シテ諸水ヲ集メテ東川トナリ、一里松ノ東ニ至リテ酒谷川ヲ合セ、油津港ノ北ニ於テ日向灘ニ注グ北河内村宿野以南ニ舟楫ノ便アリ。 福島川ハ源ヲ大東村ノ北端ニ發シ南流シテ上町ニ至リテ此處ニ於テ別ニ大矢取ニ發シテ殆ンド平行ニ流レ來レル矢取川ヲ合セテ第四紀層ノ間ヲ南流シテ、福島ニ至リ有明灣ニ注グ。

### 第三節 港灣

本縣中港灣ノ主ナルモノハ東海、土々呂、細島、内海、油津、今町ノ六港ナリ。 東海港ハ北ニ東海山ノ懸崖聳立シ砂角方財島ノ北端ト相擁シテ、河口港トナル注海部ハ約二十間ニシテ其ノ内部、横ニ廣ガリ、五箇瀬川其他ノ河口ヲ爲ス水深カラザレドモ、小汽船、帆船ハ碇泊スルコトヲ得。 土々呂港ハ延岡町ヲ距ルコト南二里半許ノ所ニアリ灣口ハ北東ノ方向ニ開ク屈曲シテ入り込ムコト凡十五町、南北約九町、東西約七町ノ廣サアリ、而シテ土々呂町ハ其西岸、砂洲ノ上ニアリ後方ニハ一帶ノ丘陵地ヲ負フ灣内ノ水深ハ低潮時ニ於テ十五尺乃至二十尺アリ、土々呂ノ地ヲ距ル四十餘間ニシテ十五尺ノ水深ヲ得船舶ノ碇泊自由ナリ水深年々埋沒セラレ棧橋益々延長セザルベカラザルハ惜シムベキコトナリ、今汽船、帆船常ニ出入碇泊ス。 細島港ハ石英班岩ノ丘陵南北ニ並ビ灣口、東ニ突出ス、東西ハ細長キ灣ニシテ縣下最良ノ商港ナリ灣入ス

ルコト深ク灣口凡ソ三百間アリ、北東ニ開キ南北ノ丘陵、風ヲ遮ルヲ以テ最モ碇泊ニ適ス。

内海港ハ宮崎町ノ南約六里ノ所ニアリ、宮崎町トノ間ニハ輕便鐵道既ニ開通ス、西及北方ハ第三紀ノ丘陵ヲ背テ、灣ハ弓形ニシテ北東端ヨリ東南ニ向ツテ岩礁延ビ北東ヨリ來ル風浪ヲ防グリ灣内ニ内海川注グアリ大正二年ヨリ築港ヲ初メ今ハ完成シタルヲ以テ一層船舶ノ碇泊ニ利便ナリ。

油津港ハ飢肥町ノ東南二里ノ所ニアリ飢肥トノ間ニ輕便鐵道ノ便アリ、油津ハ西北東ニ第三紀ノ丘陵ヲ背テ、廣渡川(堀川)之レニ注グ今町港ハ飢肥ヨリ約七里ノ南ニ位スル福島川ノ河口港ナリ、河口砂洲多クシテ海ニ注グ所風ヲ遮ルコトナキ廣キ所ナレバ船舶ノ出入ニハ便利少ナシ

## 第一章 地 質

北部ハ古生層ニシテ岩石堅固ナル所ニ天然ニ刻マレタル山骨ヲアラハシ、斷崖絶壁ヲ作り溪流ニ散在セル岩塊亦頗ル大ナルモノアリ從ツテ舟楫ノ利便少ナシ、又山地ヲ横斷スルモ容易ナラズ險道ノ避クベカラザルモノアルヲ以テナリ從テ交通モ本縣中最モ不便ナリトス、河川ハ強硬ナル岩石ノ間ヲ流ル、ヲ以テ屈曲甚ダシク中流以下ニ至ルマデ急潭多シ景色ノ奇美ハ亦此ノ間ニアリ。

南部ハ地層新シク岩石軟カナル故河川比較的、急流ナラズ、岩石ノ崔嵬タルモノ少ナク谿谷アルモ峻險ナラズ其兩岸通常、平坦ナル低原ヲ形成シ、舟楫ノ便又尠ナカラズ陸路ノ交通モ亦利便ナルモ景色ノ美ハ見ル

ベキモノ少ナシ、海岸線モ若干屈曲シテ油津、外ノ浦、有明灣ノ如キ淀泊ニ便ナル所アリ古生層ヲ貫通セル火成岩ニハ花崗岩、石英斑岩石英粗面岩、玢岩、安山岩等アリ是レ等ノ岩石ハ東臼杵郡ニテハ廣キ面積ヲ占メ先ヅ釣鐘山行驒山、可愛岳、八本木桑原山等ノ一團アリ、ソレヨリ南ニハ尾鈴山ヨリ東ニ延ビテ川平山トナリ而シテ尙東ニ延ビテ細島ノ南北ニ斷崖ヲ作レル一團アリ西ノ方ニテハ兒湯郡、天狗岩ヨリ東々北ニ天包山ノ方ニ延ビタル一大石英斑岩ノ脈アリ。

中生層ハ兒湯郡ヨリ東臼杵ニワタリテ大ニ發展シ南ニ延ビテ南那珂郡及北諸縣郡ニ至ル此中生層ノ岩石ハ古生層ト第三紀トノ中間ノ硬サヲ有セリ從ツテ山ノ状態交通ノ利、不利モ中間ニ位ス

新火成岩トシテハ西諸縣北諸縣ノ郡界ニ當リテ飯森山、韓國岳、霧島山ニ亘レル安山岩ノ一團アリ幾多ノ火山聳立ヒリ。

第三紀層ハ主トシテ宮崎郡ヨリ南那珂郡ニ發展ス一部ハ兒湯郡ニ廣ガル、第三紀層中ニ薄キ石炭層ヲ包藏スルアリ、北諸縣郡ヨリ西諸縣郡ノ全部ニ亘リテ廣ク火山灰ト浮石トノ分布アリ、高原性ノ地形ヲ形成ス、而シテ其ノ間ヲ流ル川流ハ深ク刻マレ絶壁ヲ成ス處多ク谷ニハ處々第三紀層アラハル、高原ノ上部ハ平坦ニシテ高燥ナリ故ニ牧場ニ適シ、特種農作物ノ栽培ニ適ス東諸縣郡ノ大部分ニ洪積層ノ臺地アリ沖積層ト明瞭ニ分カタル洪積層ニハ砂利及赤土ノ堆積普通ニシテ其ノ上ニ火山灰、浮石アリ亦高原地形ヲアラハス、沖積層ハ低キ平地作ヲリ、洪積層ハ數十米高キ臺地ヲ形成シ其ノ境界必ズ絶壁ヲナス、壁絶ノ根部及上部ハ平垣



第四紀ノ洪積層ハ第三紀層ヲ被ヒ、砂利、礫母及ビ浮石、粘土、砂、火山灰等ヨリ成ル之レハ水平ニ近ク又時ニハ四度乃至五度ノ傾斜ヲ爲シ低キ臺地ヲ形成シ亞炭ノ二三層ヲ介在ス

沖積層ハ極メテ低キ所ニ存在シテ砂、粘土、礫ヨリ成リ、イヅレモ未ダ固結セズ。

火成炭中花崗岩ハ主トシテ黒雲母ヲ含メルモノニシテ粒ハ中粒カ又ハ小粒ノモノ多シ白雲母ヲ含ムコトアルモ一局部ニ過ギズ花崗岩ノ縁邊ニハ漸次著色礦物減少シテ石英斑岩ニ似タル岩石ニ爲レルコトアリ、即チ石英斑岩ト區別シ難シ石英斑岩ハ周縁ノ方即チ他岩ニ近キ所ハ粒小ナリ内部ニ入ルニ從ツテ粒大トナル、正長石、石英ハ共ニ長サ數種ニ達スル結晶アリ石英ハ微晶質ニシテ石英ト正斜長石、角閃石、磁鐵礦、褐雲母等ヨリ成リ角閃石ハ結晶ノ形ヲ呈セズ大部分解シテ綠泥質物ニ變化ス、長石ハ大部、陶土化シテ新鮮ナル長石稀ナリ。

石英粗面岩ハ其ノ露出廣カラズ、之レ元來岩漿トシテハ花崗岩及ビ石英斑岩ト同一ノモノニシテ唯冷却ノ急ナリシ爲ニ粗面岩ト爲リシモノニシテ礦物成分ニ至リテハ石英斑岩ト區別ナシ唯其ノ組織ニ於テ玻璃質ヲ多ク有スルコト、石基ガ流理ヲ呈シ斑晶小ナルコトヲ異點トス故ニ石英斑岩ノ一部ガ石英粗面岩ニ移ルコト珍シカラズ本縣ニモ其例アリ。

玢岩ハ青炭色ニシテ鼠色ノ石基中ニ長石、石英ノ斑晶散點ス、故ニ長石玢岩ト稱スベキモノナリ石基ハ微晶質ニシテ主トシテ斜長石、角閃石、輝石、磁鐵礦等ヨリ成リ岩脈ヲ爲シテアラハル、岩石ニシテ地表ニ流

レタルモノアラズ。

安山岩ハ多クハ輝石安山岩ニシテ主ナル成分ハ輝石、斜長石及ビ磁鐵礦ナリ、霧島火山群ヲ作ルモノ是レナリ。

### 第三章 氣 候

本縣ニ於ケル氣候ハ概シテ寒暑ノ差甚シカラズ一般ニ溫暖ナリ、能ク健康ニ適シ又生物ノ繁殖モ盛ナリ山地ニ於テハ氣溫ノ差等アル所多少ナキニアラザレドモ沿岸一帯ノ地ハ黒潮暖流ノ影響ヲ蒙リ冬季ハ溫暖、夏季ハ涼シ故ニ避暑避寒共ニ可ナリ嚴寒ノ候ト雖ドモ北西部山地ニ降雪ヲ見ルノミニシテ南部ハ概ネ結霜ニ過ギズ平均氣溫ハ山間部攝氏十七度乃至十八度、海岸部ハ十九度乃至二十度ニシテ對絶最高溫度ハ三十九度一分(七月四日飢肥地方)絶對最低溫度ハ零下十度二分(東臼杵郡神門地方)トス雨量ハ一箇年ノ降水總量兒湯郡西米良村ノ三千五百耗ヲ最多トシ北諸縣郡都城、東諸縣高岡地方ノ千七百耗ヲ以テ最少トス雨量ノ多キコト全國中殆ンド三四位ニ在リ、要スルニ春期ヨリ梅雨期ハ濕潤ニシテ秋冬ハ乾燥シ、殊ニ秋期ハ天氣概ネ快晴自然ノ景致亦頗ル清麗ヲ極ム。

地方測候所ハ明治十六年ノ創立ニ係ル第二氣象觀測所ヲ縣内十三箇所ニ置キ又縣下ノ重要ノ港ニ暴風警報信號標ヲ備ヘテ非常ヲ報ジ明治二十六年ニハ普通地震計ヲ備ヘ大正四年ニハ簡單微動計ヲ西諸縣郡小林町ニ

設ケタリ尙一般氣象ノ利用ニ就テハ臨時所員ヲ派シテ各所ニ講話ヲ爲シツ、アリ。

### 第四章 交通

國道ハ第三十六號線ト第三十八號線ノ二線トス第三十六號線ハ延長二十九里三十二町ニシテ宮崎郡宮崎町ヨリ海岸ヲ北ニ走リ兒湯郡ヲ經テ東臼杵郡ナル大分縣境ニ至ル第三十八號線ハ延長十六里二十四町ニシテ宮崎町ヨリ大淀川ヲ渡リ東諸縣郡ヲ經テ北諸縣郡ナル鹿兒島縣界ニ達ス。

縣道ハ九線路ヲ有シ總延長六十四里三十町ニ及ブ縣費支辨ノ里道ハ三十六線路ヲ有シ總延長百六十二里五町ニ達ス。

交通ノ一機關タル客馬車ハ鐵道線路ト連絡ヲ保チ毎日數回定期ニ發着シ車輛五百餘臺ニ上ル縣營輕鐵次郎別府驛ヨリ住吉濱ニ至ル一哩一分ノ人車鐵道アリ、人力車モ亦營業用約六百臺アリ馬車人力車ノ賃錢ハ縣令ヲ以テ定メ之ヲ勵行セシム

鐵道ノ敷設ハ本縣多年ノ宿望ニシテ民間ニ於テモ曩ニ鐵道協會、鐵道期成同盟會等ヲ組織シテ努力ヲ怠ラザリシ結果今ヤ九州線吉松驛ヨリ分岐セル國鐵日薩線ハ大正元年十月西諸縣郡小林町ニ達シ次テ同二年十月北諸縣郡都城町ニ通ジ既ニシテ五年十月宮崎町ニ全通スルアリ縣西南部ノ交通ハ將ニ面目ヲ一新セントス而シテ日向海岸ヲ通貫スル日豐線亦已ニ第一期豫定線ニ編入セラレ其起工將ニ近キニアラントス。

縣營輕便鐵道ハ宮崎、妻間及飯肥、油津間ノ二線ニシテ政府ノ低利資金百餘萬圓ヲ借入レ特別會計ヲ以テ經營ス、宮崎、妻線ハ國鐵日豐線ノ豫定線ニ當リ宮崎町ヲ基點トシテ北ニ向ヒ兒湯郡下穗北村大字妻町ニ達ス、延長十六哩六十八鎖ナリ停車場ハ八驛アリ、飯肥、油津線ハ飯肥平原交通ノ幹線ニシテ南那珂郡飯肥ヨリ東ニ向ヒ星倉、一里松ヲ經テ油津ニ達ス延長四哩二鎖側線延長一哩四十七鎖、大正二年七月開通セリ。  
大淀、内海間私設輕便鐵道ハ宮崎輕便鐵道株式會社ノ經營ニ係リ内海港物資吞吐ノ要路タルト共ニ途中青島ノ名勝アリ遊覽客ノ來往常ニ多シ縣内各鐵道ノ延長左ノ如シ

國有鐵道	宮崎線	六十九哩四
縣營鐵道	宮崎妻線	十六哩六
同 飯 肥 油 津 線		三 哩 九
私設輕便鐵道	大淀内海線	十二哩五

### 第五章 鑛業沿革

今ヲ距ルコト殆ンド三百年前ニ於テ西臼杵郡千軒平ニ銅錫ヲ盛ンニ稼行シタリトノ傳フレドモ詳ナラズ岩戸村、山裏ニ舊坑數多アリ、内藤家ニテ嘗テ稼行セリト傳ヘラル又東臼杵郡富高村、門川村ニモ舊坑百餘アリ口碑ニヨレバ三百年程以前ニ稼行セリトイフ今尙ホ民家ニ當時使用セシ石臼ノ殘レルモノ數多アリ。



形峻險ニシテ交通不便ハ免カレザルモ中部以東ハ臺地ヲ形成シ交通路大ニ開ケタリ前記山岳ニハ杉、松、樅、榲等ノ巨幹多ク、四季鬱蒼トシテ繁茂シ植林又盛ナリ。

河川ノ稍大ナルモノハ五箇瀬川、美々津川(又ノ名耳川)トシ之レニ次クモノヲ北川、祝子川、五十鈴川トス五箇瀬川ハ源ヲ西部熊本縣境ノ諸峯ニ發シ祖母山下ノ濠水ヲ容レテ東流シ河口ニ近クニ及ビ二流ニ分派シ、延岡町ヲ包ミテ又相會シテ日向洋ニ入ル、流程約三十三里舟筏ノ便ヲ利スルコト約十三里ナリ。

美々津川ハ源ヲ西部縣境附近ノ峻谷ニ發シ蜿蜒々古生層ヲ貫流シ本郡ノ南部ヲ横斷シ終ニ日向洋ニ注海ス本川ハ全流域舟楫ノ便アリ。

其他祝子川北川ハ北部縣境ノ峻谷ニ又五十鈴川ハ西部郡界附近ノ高峯ニ發源ス、何レモ岩磐ノ間ヲ迂餘曲折蜿蜒シテ終ニ日向洋ニ注グ。

港灣ノ主ナルモノ舉ゲテ東海、土々呂、細島ノ三港トナス、東海港ハ東海山險崖其ノ北角ヲナシ砂嘴ヲ爲セル方財島ノ北端ト相扼シテ河口港ヲナス、注海部約二十間ニシテ内部ハ横延シテ五箇瀬川其他數川ノ口トナル、港内水淺ケレドモ小汽船帆船ノ寄泊ニ便ス、土々呂港ハ延岡町ヲ距ル南二里半ニ位スル港灣ニシテ、灣港口ハ北東ニ開キ屈曲灣入スルコト約十五町南北約九町東西約七町ニ亘ル、土々呂ノ街區ハ其西岸砂濱ニ臨在シ後方地ハ一帯ノ高丘ヲ負フ、大小汽船、帆船ノ碇泊出入ニ便ナリ、又東北部海岸東見岬ノ南海里東方ニ突出スル一高角ノ中央ニ口ヲ開キタルモノ是レ即チ細島港トス、縣下第一ノ商港ニシテ灣入スルコト深ク

灣港口凡ソ三百間北東ニ開敞シ兩側ニ山陵ヲ負ヒ風波ヲ遮ルヲ以テ船泊ノ碇繫ニ便ナリ。

島嶼、島ノ浦ハ南浦村福崎ヲ距ル海上約一海里東ニアリ、周圍三里餘、古生代ノ粘板岩及砂岩ヨリ成ル、西面ニ島ノ浦港ヲ有ス小船ノ寄泊ニ便ナリ。

### 第三節 交通

郡ノ北部ハ地形概テ高峻ニシテ交通便ナラザレドモ東南部ニアリテハ地形平坦道路大ニ拓ケ交通至便ナリ又所々ニ郡道開鑿ノ企劃アリ、又海岸沿線ニ官鐵布設線路測量中ナレバ近キ將來ニ於テ一層交通機關ノ發達ヲ見ルベシ。

又前記諸川ハ多少共ニ舟運ニ便シ、大阪商船會社汽船ハ沿海諸港ニ寄港スルヲ以テ海運至便ナリ。

### 第四節 氣候

本郡ノ氣候ハ西臼杵郡ニ比シ一般ニ溫暖ニシテ盛夏華氏九十度ヲ超ユルコトアリ冬期積雪稀ニシテ室內溫度華氏三十度位ナリ毎年四五月ノ降雨多ク時ニ八九月頃降雨烈シク洪水汎濫スルコト往々アリテ沿川害ヲ被ルコトナキニアラズ。

### 第五節 地質

本郡ヲ構成スル地質ハ次ノ如ク區分セラル。

#### 一、秩父古生層並中生層





ハ板狀節理ヲ有ス、質堅ク建築用石材トシテ廣ク利用セララル。

## 第六節 鑛物

本郡ニ於テハ日平、槇峯ヲ初メトシテ銅鑛盛ニ稼行セラル、此兩鑛山ハ九州ニ於ケル最モ産額多キ銅山ナリ、古生層ノ中ニ地層ニ平行ニ介在セル銅鑛床ニシテ元來古生層中ニアル銅ハ日本ニ於テハ殆ンド南日本ニ限ラレ、其ノ中ニテモ外帶即大洋側ニアリソノ最モ事業ノ盛大ナルハ實ニ本郡ナリ、目下一ヶ月ノ製鍊高ハ日平ニ於テハ約十六萬斤ニ上レリ、槇峯モ亦同ジ狀態ニシテ鑛床ノ厚サ數十尺ニ膨張スルコトアリ、又甚ダ薄キモノアリ、而シテ扁桃狀ヲナシテ存在ス、併シナガラ地層ニ平行ナル故ニ之ヲ探求スルコト容易ナリ、鑛石ノ品位、高カラザレドモ概ネ一定ス、之レ大ニ有利トスル點ナリ銅鑛山ガ多年ノ間衰フルコトナク發展スルハ是レガタメナリ、品位ハ兩山共ニ百分二乃至百分四内外ナリ。

日平ニテハ四ツノ主要ナル鑛帶アリ、槇峯ニテハ新鑛床ヲ發見シテ今益々其ノ方向ニ發展シツ、アリ、兩山共ニ含銅硫化鐵ナリ。

宇納間銅山ハ亦古生層中ニ扁桃狀ヲナセル含銅硫化鐵鑛ニシテ鑛ノ厚サ小ナリ、品位アマリ良好ナラザル爲メ今日マデハ發展ノ著シキモノナシ、地質、鑛床ノ狀態ハ日平及ビ槇峯ト同様ナリ。

尙試掘鑛區トシテハ東海村大字祝子字石高古生層中ニ介在シアル含銅硫化鐵鑛ヲ稼行セルアリ、厚サ二尺許アリテ地層ニ平行ニ挾マル品位、百分ノ二内外ナリ。

此ノ地方一帯ニ地形急峻ニシテ平坦ナル地ニ乏シ尙北方村ヨリシテ西白杵郡七折村ニ跨ガリテ銅鑛床ノ試掘鑛區數個所アリ、イヅレモ古生層中ニ扁桃狀ヲ爲シテ入レル含銅硫化鐵鑛ナリ、鑛床ハ日平槇峯ト同様ニシテ將來探鑛スルノ價値アルモノト認ム。

東郷村ニ金銀、銅、錫、亞鉛ノ試掘鑛區アレドモ之レ單ニ銅鑛トシテハアリ有望ナルモノニテラズ。

金鑛ハ東白杵郡ニテハ富高村、富高金山、龜崎金山アリ、イヅレモ目下稼行中ナリ、富高金山ハ石英斑岩中ニ入レル石英脈ニシテ其脈中ニ合金ス鑛脈ハ數條アリ或鑛脈ハ西北ニ走リテ西南ニ急斜シアリ他ハ東西ニ走リテ南ニ傾斜ス又他ハ東北ニ走リ西北ニ傾クモノアリ今後モ尙新シキ脈ヲ發見セラル、コトアラン、品位ハ上鑛ハ十萬分ノ七乃至八ニ達シ鑛幅厚キモノハ平均二尺五寸ニ達ス、ウスキモノト雖ドモ一尺内外アリ此鑛山ノ地質、鑛床、狀態ハ大分縣ニ於テ大ニ發展シ居ル馬上金山ノ狀態ト頗ル類似セルモノアリ、鑛石ハ一部角礫狀ヲ呈スルコト、鑛石中ニ硫化安質母尼ヲ伴隨スルコト母岩ガ石英斑岩ナルコト、鑛脈ガ東西ニ走ルモノト東北若シクハ西北ニ走ルモノアルコト皆馬上金山ニ類似ス山ハ低ケレドモ馬上金山モ亦然リ舊坑數多アリ現今稼行セル區域ノ西南ニアタリテ石英斑岩ヨリ成レル丘陵アリ漸次此ノ方面ニ探鑛ノ手ヲ延バサバ新鑛脈モ發見セラルベク鑛業ノ今後ノ發展ハ活目スベキモノアリ、此山ハ交通甚ダ利便ニシテ僅々一里許ニテ細島港ニ達スベシ而シテ佐賀ノ關製鍊所ニテハ此ノ種ノ酸性ノ鑛石ヲ最モ必要トスル故ニ此ノ關係ヨリスルモ大ニ好都合ナリ。

龜崎金山ハ富高村ノ東北半里許ノ處ニアリ第三紀層中ニ胚胎セル鑛脈ヲ稼行ス鑛脈ノ走向ハ一ハ西北ニシテ一ハ東北ナリ、西北ノモノハ西南ニ傾斜シ東北ノモノハ西北ニ傾斜ス鑛脈一乃至二寸ヨリ六乃至八寸ノ間ニ變化シ目下稼行セルハ専ラ水酸化鐵ノタメニ茶褐色ニ染メラレタル粘土鑛ニシテ其ノ品位十萬分ノ四以下ナリ現時稼行セルハ地表ニ近キ所ニシテ、鑛脈ノ中ヲ地下水ガ自由ニ循環シタル形跡アリ、從ツテ第二次のニ富鑛セシ傾向アリ、其ノ富鑛帶ガ如何程ノ深サニ及ブカ不明ナレドモ兎ニ角地下水ノ自由ニ巡流シタル區域ナラザルベカラズ富鑛帶ノ深サ以上ノ深處ニ至レバ鑛石ノ品位ヲ異ニスルヲ通例トス、其ノ如何ニ變化スルカハ探鑛ノ上ナラザレハ不明ナリ、要スルニ交通便利ニシテ運搬ニ容易ナルヲ以テ好都合ナリ、比較的、品位低キ稼行ニ堪フルコトヲ得事業開始以後日尙殘ケレバ將來益々多量ノ鑛石ヲ出スナルヘシ。

安質母尼鑛ハ門川村ト東郷村トニアリ。

東郷村ニアルモノハ東郷村大字山陰ノ岳陵側ニアリテ中生代ニ屬スル淡褐色砂岩ト黝色ノ頁岩トノ中ニ胚胎セルモノニシテ西北ニ走リテ東北ニ急斜セル石英脈ト殆ンド東西ニ走リ北ニ傾ク所ノ層狀脈トアリ、其ノ脈中ニアル有用鑛物ハ輝安質母尼鑛ニシテ砂岩ト頁岩トノ間ニ扁桃狀ヲ爲シテサシハサマル、モノハ帶狀ヲナス、幅一乃至四寸アリ、母岩ヲ横斷セル石英脈ニアルモノハ長サ一寸内外ヨリシテ數寸ニ達スル大ナル結晶ガ平行狀又ハ放射狀ニ石英中ニ介在セリ其ノ鑛幅數寸乃至一尺アリ鑛石ノ品位モ良キモノニテハ百分ノ五十以上ニ達スルモノアリ不良ナルモノト雖ドモ百分ノ二十ヲ下ラズ鑛石ノ量モ亦相當ナリ、又東郷村、下三

箇ニテ最近新シク試掘坑ヲ開キテ探鑛スルアリ此ノ新鑛石ニハ多量ニ閃亞鉛鑛磁鐵鑛ヲ存ス、又硫化安質母尼ヲ胚胎ス故ニ安質母尼鑛トシテノミナラズ亞鉛鑛石トシテモ探鑛ノ價值アリ。

門川村大字加草ヨリ尾末ニ亘リテ中生層中ニ胚胎セル石英質頁岩或ハ石英脈中ニ安質母尼鑛ヲ胚胎セル處アリ、東北ニ走リ、西北ニ傾斜ス、幅二乃至三尺アリテ下盤ノ盤際ニ一乃至二寸ノ幅ノ帶狀ヲ成セル輝安質母尼鑛存在ス、鑛石ヲ分拆スルニ安質母尼ノ品位ハ百分ノ二十乃至百分ノ六十位マデノモノアリ安質母尼鑛トシテハ先ヅ良好ナルモノナリ、石英脈ニ存在スルモノモ、鑛幅一尺内外アリ又三乃至四尺ニ達スル處アリテ是亦下盤ノ盤際ニ一寸幅許ノ帶狀ノ輝安質母尼鑛存在ス、加之全体ノ岩脈ノ中ニ塊狀ヲ爲シテアリ、品位ノ惡シキモノモアレド又良好ナルモノモアリ、將來探鑛ノ價值アリ、交通便利ナルヲ以テ運搬ニ多額ノ費用ヲ要セズ有利ニ稼行スルヲ得ベシ、要之、東白杵郡ニ存スル鑛物中ニ最モ多量ニ賦存スルモノハ銅鑛ニシテ之レニ次デハ金、安質母尼ナリ。

### 第三章 西白杵郡

#### 第一節 位置

本郡ハ縣ノ北部ニ位置シ北ハ大分縣大野郡、東ハ東白杵郡、西ハ熊本縣阿蘇郡、上益城郡、八代郡南ハ兒湯郡及ビ熊本縣球磨郡ニ隣シ東西十一里餘南北十五里餘面積九十方里アリ而シテ郡ノ首邑三田井ハ郡役所々

在地ニシテ縣廳所在地タル宮崎町ヨリ延岡町ヲ經テ三十七里餘ニアリ。

### 第一節 地 勢

本郡ハ縣内最モ僻陬ノ地ニシテ西北部縣界附近ニ多少低平ナル地積ヲ有スルノミ其他地形概ネ急峻ニシテ交通不便ヲ免カレズ北部縣境ニハ本谷山(一、六四二、九米)祖母山(一、七五七、五米)原山(一、〇八七、七米)等ノ峻岳聳立シ漸次南方ニ陵夷シ南部縣境ニハ小川嶽(一、五四二、一米)向坂山(一、六八四、四米)三方山(一、五七七、七米)高嶽(一、五六三、二米)國見山(一、七三八、九米)烏帽子嶽(一、六九一、七米)市房山(一、七二一、八米)等ノ高山峻岳相連立シ東南ニ夷陵シテ白岩山(一、六四六、四米)石仁田山(一、三八〇米)高塚山(一、二八九、九米)等ノ諸峯ヲナス而シテ之等山岳ニハ檜、椎、樅、杉、松等ノ巨幹鬱蒼トシテ茂リ加之國縣又民有ノ植林倍々盛ナリ。

前述ノ如ク到ル所高峻起伏シ低平ノ地積ニ乏シク人烟ハ山間ニ點々段形ヲナシテ拓ケ水田甚ダ稀ナリトス本郡ニ於ケル河川ノ主ナルモノハ美々津川(又耳川ト云フ)五箇瀬川ノ二トス。

美々津川ハ其ノ源ヲ椎葉村ノ北部縣境ニ發シ國見山、三方山、向坂山等ノ峻嶺ヨリ流下スル水ヲ聚メテ南流シ尾ノ前ニ至リ尾手ノ尾附近ニ發スル溪流ヲ合セテ東流シ郡ノ西南部境界ヨリ發スル不土野川ヲ併セ蜿蜒々東流シテ下福良、桑弓野ニ至リ嶽拔尾川ヲ合セ尙蜿蜒シテ下椎葉ニ至リ字仲塔ノ峻谷ヨリ發スル十根川ニ合シ椎葉村字中尾附近ヨリ南部郡界ヲ成シ諸塚村字塚原附近ニテ字日ケ暮近傍ニ發スル七ツ山川及ビ字立岩ニ

發スル柳原川ト合シ東又南シテ諸塚村布所野ニ至リ之ヨリ東白杵郡ニ入り南部ヲ蜿蜒シ終ニ日向洋ニ注海ス本川ハ諸塚村家代ヨリ上流ハ巨岩河床ニ横ハリ概ネ急流ニシテ木材ノ流下ヲナスニ過ギザレドモ之ヨリ下流ハ舟楫ノ利ヲ便ズ

五箇瀬川ハ其ノ源ヲ鞍岡村本屋敷附近即チ小川嶽木浦山、搖嶽等ノ諸峰ニ發シ北流シ一度熊本縣ニ入り阿蘇郡ノ低原ヲ緩流シテ本郡三ヶ所村、桑ノ内附近縣境ニ於テ別ニ源ヲ三ヶ所村桑ノ木谷附近高峯ニ發スル三ヶ所川ヲ併セ蜿蜒シテ縣界ヲ成シ高千穂押方ニテ田原川ニ合シ尙又東或ハ南シテ七折村末市ニテ岩戸川、七折村日ノ影ニテ日ノ影川ト合シ東白杵郡ヲ横斷シ延岡町ヲ過ギ日向洋ニ注グ、本川ハ七折村日ノ影以東ニ於テ舟筏ノ便利アリ。

### 第三節 交 通

郡内到ル所地形頗ル峻嶮ニシテ車馬ノ交通ニ便スルモノハ高千穂、三田井ヲ基點トシ五箇瀬川ノ左岸ニ沿ヒ東白杵郡延岡町ニ通ズルモノト田原村河内ニ至リ之ヨリ分岐シテ二派トナリ一ハ大分縣竹田町熊本縣高森ニ通ズルモノ及ビ熊本縣馬見原町ヲ經テ鞍岡村ニ通ズルモノヲ主要ナル道路トシ又田原村河内ヨリ三ヶ所村ニ達スルモノ、三田井ヨリ岩戸村ニ通ズルモノアリ何レモ幾多ノ坂路ヲ上下セザルベカラズ。

七折村日ノ影ヨリ日ノ影川ニ沿ヒ木材運搬専用軌道(右側)及岩戸村内藤錫鑛山ニ通ズル道路(左側)アリ平坦ニシテ交通至便ナリ。

其他溪流ニ沿ヒ或ハ山腹ニ沿ヒ幾多ノ小經アルモ急峻ニシテ漸ク人馬ヲ通ズルニ過ギズ。  
要之五箇瀬川沿道ハ稍平坦ナル區間アリテ比較的交通困難ナラザルモ郡ノ南半部椎葉村鞍岡村及ビ其ノ近  
隈ハ高峯群立シ車輛ヲ通ズル路ナク交通不便ナリトス、河流ハ何レモ急激ニシテ木材流運ノ外舟楫ノ利ヲ便  
スル流域少シトス。

### 第四節 氣候

本郡ハ縣ノ寒帶ト稱セラレ盛夏氣溫華氏九十度ニ昇ルコト稀ニシテ冬期霜強ク積雪五寸ヲ超ユルコト往々  
アリ六七月ノ交雨多ク九十月ノ頃暴風雨ノ襲來スルコトアリテ洪水汎濫スルモ沿川人家人畑少ク被害稀ナリ  
ト云フ

### 第五節 地質

本郡ヲ構成スル地質ハ次ノ如ク區分セラル。

- 一、秩父古生層
- 二、第四紀洪積層
- 三、花崗岩
- 四、石灰岩
- 五、輝石安山岩

### 六、火山灰及灰石

#### 一、秩父古生層

郡ノ北部花崗岩地帯ヲ除キ殆ンド本層ヲ以テ基盤ヲ構成シ粘板岩、砂岩及綠色千枚岩ヨリ成リ又輝綠凝灰  
岩ヲ觀ル而シテ一般走向ハ北十度乃至七十度東ニシテ西北ニ向ツラ二十度乃至六十度傾斜ス、粘板岩ハ郡ノ  
南部椎葉村諸塚村ニ於テ整層面ノ露出著シキヲ觀ルベシ、色ハ黝灰又ハ黑色ヲ帶ビ堅緻ナリ郡ノ北部ニ露出  
セルモノハ局部變動ヲ受ケ層理錯雜ヲ極メ分解シテ概ネ橙褐色ヲ呈シ脆弱ナリ、砂岩モ粘板岩ト互層ヲナシ  
郡南部ニ整層セルヲ觀ル暗灰又ハ淡青色ヲ呈シ堅硬緻密ナリ、綠色千枚岩ハ三ヶ所村、諸塚村家代附近及ビ  
七折村ニ於テ粘板岩ト交層シテ存シ淡綠黝綠色ヲ呈シ、往々石英又ハ方解石ノ細脈ヲ亂雜シ又蛇紋岩ニ移化  
セルモノアリ輝綠凝灰岩ハ椎葉村字松ノ平附近丘陵及ビ岩井川村字島屋ノ平以北丘陵ニ點々露出セルヲ見ル  
概ネ赭褐色ヲナシ綠色ノモノ稀ナリトス、本郡ニ於ケル銅鑛床ハ主トシテ是等古生層中ニ層狀鑛脈又ハ單ニ  
鑛脈ヲナシ胚胎セラル、モノ、如シ。

#### 二、第四紀洪積層

本層ハ三ヶ所村波歸附近岡陵ニ於テ之ヲ觀ル墟垣ハ浮石質砂粘土及砂礫ノ薄層ヨリ成リ礫層其下部ヲ占ム  
赭褐色ヲ呈シ一部有機物質ノ滲染ニヨリ黑色トナルモノアリテ水平ニ成層セリ。

#### 三、花崗岩

本岩ハ郡ノ基盤ヲ成セル古生層ニ接シテ北部縣境ニ聳立スル九州第一ノ稱アル祖母山ヲ型成シ南方ニ發展シ又一部ハ東北部縣界ヨリ漸次南西ニ夷陵シ五葉嶽、釣鐘山等ノ峻嶽ヲナシ丹助嶽ノ南麓ニテ古生層下ニ沒ス、祖母山ヲ成セル本岩ハ漸次山麓ニ及ンデ質脆ク疎鬆ニ傾キ長石ノ斑晶著シク又陶土化シ花崗斑岩ニ移過シ岩戸村土呂久附近ノモノハ石英斑岩ニ移化セリ、東北部即チ釣鐘山附近ノモノハ堅緻ニシテ淡綠乃至褐灰色ヲ帶ビ建築用石材トシテ使用セラル、而シテ本郡ニ於ケル金屬鑛床ノ豊良ナルモノハ本岩ト前記古生層トノ接觸部附近ニ胚胎セラル、モノ多シトス。

四、石灰岩

本岩ハ東北ヨリ南西ニ郡ノ中央ヲ貫通シ帶狀ヲ爲シ椎葉村尾手ノ尾ヨリ同村尾前、仲塔ヲ經テ十根川ヲ横斷シ黒嶽、諸塚山ヲ過キ七折村椎屋ニ至リ尙北走シテ祖母山ノ東麓ニ沿ヒ遂ニ大分縣ニ連亘セリ、緻密質ニシテ暗灰色ヲ呈ス、幅ハ常ニ膨縮一定セズト雖ドモ凡ソ二三十米突ニ達シ延長四十基米突餘ニ亘ル。

五、輝石安山岩

本岩ハ北部縣境附近黒原越ノ丘陵ニ於テ西南ヨリ東北ニ向ヒ僅カニ迸出セラル、ヲ觀ル。

六、火山灰及灰石

火山灰及灰石ハ郡内岡陵ニ其布衍ヲ見サル所ナク殊ニ五箇瀨川ノ流域丘陵ノ懸崖ニ歷然タリ、主ニ洪積世ヨリ沖積世ニ亘リ阿蘇火山地方ヨリ噴出シタルモノノ如ク火山灰、浮石、火山砂、火山岩屑及火山泥流ノ固

第六節 鑛物

結シタルモノヨリ成リ灰石ハ暗灰色ヲ帶ビ時ニ玻璃質熔岩アリ通常後者ハ上部ヲ占メ下方ニ至ルニ從ヒ前者ノ性質ヲ帶ベリ、灰石ハ堅硬ニシテ柱狀節理ニ富ミ建築石材トシテ廣ク利用セラル。

本郡ニテ先ヅ注目スベキハ見立錫鑛山ナリ。

見立ハソノ昔昔テ内藤家ノ稼行セシ山ニシテ明治四十年頃ヨリ再ビ探鑛シテ以來九ケ年間着着其歩ヲ進メ今日ニ於テハ坑道ノ全延長一萬八千尺ニ達ス、以テ探鑛ノ如何ニ進涉セルカヲ知ルニ足ル、今ハ製練所モ完成シ空中架空索道モ出來、水力發電所モ落成シアリ、今後盛ンニ採掘製練ニ着手セラル、運ビニ至リ一日約五萬貫ノ鑛石ヲ所理スルノ計畫ナリ、全地質ハ古生層ニシテ岩石ハ珪岩、粘板岩、砂岩及石灰岩ナリ鑛床ハ石灰岩ト珪岩、粘板岩ノ如キ岩石ノ接觸部ニ胚胎セル一大鑛床ナリ、現時探鑛セラレタル鑛床ハ一條ニシテ、之レニ直角ニ横坑ヲ目下開鑿中ナリ、古生層ノ間ニ尙二條ノ石灰岩帶アル故ニ此ノ石灰岩ト他ノ古生層トノ接觸部ニハ現今知ラレタルト類似セル鑛床アルヤモ知ラレズ、若シ之レアリトセバ五六條ノ鑛床ガ發見セラレ來ル等ナリ、目下探鑛セラレタル鑛床ハ主ニ東西ニ走りテ兩端ノ方ニテハ北方ニ少シク灣曲シ七十度許傾斜ス、或ハ坑内ニ於テハ走向ガS字形ニ反對ニナレルモノモアリ、目下スデニ探鑛セラレタル鑛床ノ長サニテモ走向ノ方向ニ約三千尺、傾斜ノ方向ニ二三條ノ露頭ヨリ約一千尺探知セラル、鑛幅僅ニ二乃至三分位ニ縮小セルコトアリ又二十尺位ニ膨大スル處モアリテ平均六尺許アリ、上盤ハ珪岩ニシテ、下盤ハ結晶狀石灰岩ナ

リ、其ノ中ニ入り來レル有用鑛物中最モ主要ナルモノハ酸化錫タル錫石ト硫化鐵ノ一種タル磁硫鐵鑛トシテ此ノ二鑛物ハ極メテ親密ニ相交雜ス此ノ他處ニヨリテハ一部閃亞鉛鑛硫砒鐵鑛ノ集マレル處アリ、又錫石ガ硫砒鐵鑛ニ伴隨スルコトモアリ、黃鐵鑛ハ鑛床中到ル處ニ散點スレドモ方鉛鑛、黃銅鑛ハ其ノ量少ナク又極メテ稀ニ重石ヲ產スルコトアリ、又少量ノ鏡鐵鑛ヲ含有スルコトアリ、脈石トシテ最モ多ク存在スルモノハ石英ナリ、之レニ次ギテ方解石、綠簾石、卓石、柘榴石、輝石、綠泥石、斧石、白雲母、ベスブ石、曾長石ヘデンデルブ石等ヲ伴隨シ來ル鑛石中ノ錫ノ品位ハ最上等ナルモノニ於テハ百分中六十八ヲ含有スルモノアリ、又下等ノモノニアリテハ百分中二位ヲ含ムニ過ギザルモノアリ、從來ノ調査ニヨレバ鑛石ヲ平均シテ一割内外ノ錫ヲ含有スルトイフ、元來錫ヲ含有スル所ノ接觸交代鑛床ニ於テハ螢石、燐灰石、電氣石、斧石ノ如キ弗素、礬素、鹽素屬ノ原素ヲ含有スル鑛物ヲ含ムコト普通ニシテ大分縣ト宮崎縣トノ縣界ニ近クアリテ本鑛山トノ距離餘リ遠カラザル尾平、木浦等ノ錫山ニ於テハ常ニ是等ノ鑛物ガ產出スルモ拘ハラズ獨リ本鑛山ニ於テ少量ノ斧石ヲ產シタルノミニシテ未ダ嘗テ螢石、燐灰石、電氣石ヲ出シタルコトナキハ頗ル奇ナル現象ニシテ是ハ鑛床學上研究スルニ値スル事項ナリ、錫ヲ持チ來シタル當初ノ瓦斯ハ非常ナル高溫度ニシテ水蒸氣ヲ伴ヒシモノト考ヘラルレドモ其ノ瓦斯ノ中ニ弗素、鹽素、礬素ノ如キモノヲ含ムコトガ此ノ鑛山ニ出デ來リシモノニ限リテ少カリシモノナランカ或ハ他ニ原因ノアルコトナランカ今後ノ研究ヲ待ツベキコトナリ、斯ノ如ク鑛床ノ研究上本鑛山ガ頗ル趣味アルノミナラズ錫ノ鑛床トシテハ日本ニハ從來大ナルモノ極

メテ稀レニシテ恐ラクハ本鑛山ノ錫鑛床ハ最モ大ナルモノナラン是レ本縣ガ以テ誇トスルニ足ルモノニシテ將來日本ノ錫ノ大部分ノ產額ヲ出スニ至ランカ錫鑛山トシテ最新式ノ設備亦實ニ堂々タリ。

本鑛山ヨリ西北約二里半ヲ距リタル字音ガ淵ニ於テ本鑛山ト同様ナル接觸交代鑛床アリ、錫、亞鉛、重石砒ヲ含ム所ノ鑛石ヲ產出ス、錫ノ品位低キタメト亞鉛ガ割合多キコト、ニテ或時ハ重石鑛山トシテ稼行シタルコトアリ、又亞鉛鑛山トシテ稼行セラレタルコトモアレド其後ハ著シキ發展ヲナサザルガ如シ。

本郡内ノ銅鑛ハ稻荷鑛山、三ヶ所鑛山、岩戸村ノ千軒平鑛山アリ又椎葉村、上野村、岩井川村、七折村、鞍岡村等ニモ賦存セリ何レモ古生層中ニ地層ニ平行ニ介在セル扁桃狀ノ含銅硫化鐵鑛床ナリ。

稻荷鑛山ニテハ母岩ハ珪石ト硬砂岩トニシテ之レヲ貫キテ安山岩ノ噴出セルアリ、鑛床ハ層狀脈ノ外ニ普通ノ鑛脈アリ東西若シクハ東北ニ走り、北若シクハ西北ニ急斜ス、脈石ハ石英ニシテ厚サ屬々變化シ平均約五尺ナリ、鑛物ハ含銅硫化鐵ニシテ銅ヲ含ム品位ハ平均百分ノ四ナリ一部分ニハ斑銅鑛、輝銅鑛ヲ含メル富鑛帶ニ出會フコトアリ、副鑛物トシテ極微量ノ銀、亞鉛、安質母尼ヲ產ス。

三ヶ所鑛山ハ鑛區稻荷鑛山ト連續シテ地質鑛床ノ狀態相等シ。

千軒平鑛山ハ岩戸村字千軒平ニアリ昔府内ノ三彌氏ガ盛ニ稼行シタルコトアリト云フ古生層中ノ含銅硫化鐵鑛床ニシテ大部分ハ其ノ昔採掘シタル跡ニシテ近來少シヅツ稼行セル様ナルモ餘リ產額ノ増加ヲ聞カズ。

鞍岡村字長峯ニ目下試掘中ノ鑛區アリ、地質ハ古生代ノ千枚岩ニシテ西北ニ走り、西南ニ急斜ス稼行セル

鑛床ハ鑛脈ニシテ東西ニ走り北ニ急斜ス鑛幅四乃至五寸ニシテ鑛石ハ含銅硫化鐵ナリ、銅ノ品位ハ百分ノ三乃至四ナルガ少量ノ金銀分ヲ含有ス、今後探鑛進メバ發見スル所アラシ。

其他ノ銅鑛床ハ何レモ品位ノ低キ含銅硫化鐵ニシテ目下探鑛中ノモノ少キヲ以テ今茲ニ明言スルコトヲ得ズ今後ノ探鑛ノ結果ニ待ツノ外ナシ銀、鉛鑛ハ岩戸村大字山裏ニ二三ノ試掘鑛區アリ其ノ中字上町谷ニアルモノハ今日ヨリ六十年程前ニ稼行セシコトアルヤニテ舊坑鑛滓アルモ舊記ナキヲ以テ詳カナラズ、地質ハ古生代ノ粘板岩、千枚岩、砂岩、角岩ニシテ、東北ニ走り西北ニ急斜ス、一部ニ石英斑岩アリ、鑛ハ裂縫填充ノ鑛脈ニシテ北六十度東ニ走りテ西北ニ急斜ス、鑛幅二尺許ナリ而シテ脈石ハ石英ナリ、鑛石中ニ含銀方鉛鑛閃亞鉛鑛及ビ輝安質母尼鑛ヲ含有シ又小溪谷ヲ距テ厚サ一乃至一尺五寸ノ磁鐵鑛床アリ前記ノ銀鉛鑛ハ約千分ノ一ノ銀百分ノ四十ノ鉛、百分ノ八許ノ亞鉛ヲ含有シテ安質母尼ノ多キ部分ハ百分中二十六ヲ含ミ亞鉛ノ多キハ百分ノ三十七ヲ含有スルモノアリ、磁鐵鑛ハ百分中六十以上ヲ含ミテ燐ナク硫黃分モ痕跡ニ過ギズ斯ノ如キ結果ナル故ニ銀鑛トシテモ鉛鑛トシテモ亞鉛鑛、鐵鑛トシテモ成立シ得ルモノナリ、唯鑛量ノ豊富ナラザルヲ遺憾トス。

前記ノ鑛床ニ隣接シテ祖母山ノ東南側ニ目下試掘中ノ鑛床アリ、地質ハ古生代ノ粘板岩ニ石英斑岩ガ突入モルモノニシテ、鑛脈ノ走向ハ西々北ヨリ東々南ニシテ殆ンド直立ス鑛幅約二尺アリテ二尺ノ間隔ヲ距テ幅二寸位ノ小ナル脈アリ他ノ一條鑛脈ハ東々北ニシテ北方ニ急斜ス幅二尺乃至二尺五寸アリ、盤際ニ一寸乃至

二寸ノ含銀方鉛鑛、閃亞鉛鑛ヲ挾メリ、亞鉛分ハ百分ノ十乃至二十ニシテ鉛分ハ百分ノ二十内外、銀分ハ極メテ微量ナリ是ハ前者ニ比シテ品位劣ル、併シ將來探鑛ヲ進メナバ更ニ品位良キ鑛石ヲ發見スルコトアラシ要之銀、鉛、亞鉛鑛ハ鑛量餘リ豊富ナラズ鑛物ノ市價ニヨリテ或ハ亞鉛鑛トシテ有利ナルコトモアルベク又銀鉛鑛トシテ稼行シ得ルコトモアルベシ。

重石鑛ハ岩戸村大字山裏ニ於テ處々ニ鑛床存在ス、イヅレモ古生層ノ粘板岩、石灰岩ト花崗岩若シクハ石英斑岩ト接觸シタル結果生成シタル鑛床ニ屬スルモノニシテ音ヶ淵ニ於テハ錫石、閃亞鉛鑛、硫砒鐵鑛ト相交雜シテ銩色ヲナシタル重石鑛ヲ鑛石中ニ散點ス同ジク山裏ノ字中村後原ノ山中ニ於テハ約一里ヲ距テ二ヶ所ニ重石鑛床アリ、イヅレモ花崗岩ト古生層トノ接觸作用トニ基ケル鑛床ニシテ鑛幅二三尺ヨリ四五尺ニ達スル所アリ。

脈石ハ方解石、石英ニシテ其ノ中ニ銩色若クハ灰白色ノ重石ガ所々塊狀ヲナシテ不規則ニ存在ス明治四十一二年頃ヨリ大ニ着目セラレテ試掘ヲ初メ大正三年度ニ於テハ一萬二千貫許ノ產出額アリ唯其ノ存在甚ダ不規則ナルヲ以テ一定ノ方針ヲ立テテ事業ヲ行フコト艱難ナリ、此ノ附近ニハ尙ホ他ニモ重石鑛床存在スルナラン、音ヶ淵ノ重石鑛床モ重石ガ錫、亞鉛、鑛石ノ中ニ混ジタルモノニシテ重石ヲ知ラザル以前ニ探掘シタル鑛石ノ遺棄セラレタルモノ、中ニモ重石ヲ含ムモノアリテ之レヲ破碎シ重石ヲ採リタルコトアリ今後坑内ニ於テ探進セバ尙重石ヲ得ルコトナラン、サレド又コ、モ存在ガ不規則ナルコトヲ免レズ、錫、重石鑛ノ大

ニ注意スベキハ外國ニ於ケル實例ヨリ考フルモコノ鑛床ヨリ蒼鉛、水鉛、ウラニウム、ラヂウムノ如キ稀ナル金屬ヲ產出スルコトアルヲ以テ今後ノ探鑛ニ際シテモ之レ等ノ點ニ深ク注意シテ事業ヲ進ムル時ハ未發ノ富源ヲ發見セズトモ限ラザルベシ。

滿俺鑛ハ岩戸村大字山裏字煤市ノ丘陵側ニ古生代ノ珪岩中ニ塊狀ヲナシテ黑色酸化滿俺ノ介在セルモノアリ、露頭部ニテハ其品位劣等ニシテ鑛量モ豊富ナラザル様見受ケラル尙ホ探鑛ノ上ナラデハ斷言スルヲ得ズ之レヲ要スルニ西臼杵郡内ニ於ケル鑛物中將來多量ノ產額アラント思ハル、モノハ錫ニシテ之レニ次ギテ銅、亞鉛、銀、鉛鑛ニシテ、重石鑛モ若干ノ產出ヲ見ルコトナラン、尙ホ日本ニ於テ未發ノ稀ナル金屬ノ發見セラル、コトアルヤモ測ラズ只地形峻險ニシテ、交通便利ナラザルハ大ナル不利トスル所ナリ、須ラク交通ノ利便ヲ開拓シテ此ノ天然ノ富源ヲ開發スヘキナリ。

### 第四章 兒湯郡

#### 第一節 位置

北ハ東臼杵郡、西ハ熊本縣球磨郡、南ハ東西諸縣並ニ宮崎郡ニ接シ東方一帶ハ單調ナル海岸線ヲ以テ日向洋ニ面セリ。

#### 第二節 地形

本郡ノ東南部約四分ノ一區域ハ岡阜地並ニ平地ニシテ耕地大ニ開ケ道路縱橫交通便ナレドモ其他ノ部分ハ高山峻岳相重疊シ地形峻險交通甚ダ不便ナリ就中高峻ナルハ郡ノ西北部熊本縣球磨郡ニ隣接セル西米良地方ニシテ肥後ノ國境ニ聳立セル市房山(海拔一六九三米)ヲ最高トシ其東方ニ相對峙セル石壺山(海拔一四六九米)及天包山(海拔一二〇三米)是ニ次ギ郡ノ北境ニハ尾鈴山(海拔一四二二米)尾張陰山(海拔一三二二米)地藏岳(海拔一〇〇七米)ノ如キ高峰群立シ人煙甚ダ稀少ナリ。

前記ノ山岳ハ東臼杵ヨリ西南大隅ニ連亘セル日向山脈ノ一部ニシテ一般ノ方向ハ山骨ヲ構成セル中生層ノ走向ニ一致セルモ東南ニ向テ漸次陵夷セル數支脈ヲ分岐セリ此等ノ支脈間ヲ流下スル水ヲ集メタルモノハ即チカド川、米良川、綾北川等ノ河流ナリトス、中生層區域ハ前記ノ如ク峻險ナル山地ヲ形成セルモ一度洪積層區域ニ入レバ上部平坦ナル海拔百米内外ノ卓子原ヲ形成シ地白ハ全然中生層地域ト異レリ是此地方地貌ノ特徴ナリトス、洪積層ヨリ成レル卓子原ハ東南ニ至ルニ從ツテ擴大シ都農、高城ノ間橫タハレルヲ唐瀬原ト稱シ高城、妻間ニ於ケルモノヲ茶臼原ト呼ブ、牧場トシテ適當ナリ

山岳ハ樅、樅、一位、槻、杉、檜等ノ巨大ナル常綠樹ヨリ成レル森林蒼鬱トシテ晝尙暗シ加之國有又ハ縣有造林地亦頗ル廣ク杉、檜ノ植林年ヲ追フテ盛ナリ然レドモ他面ニ於テハ山林ノ濫伐セラル、アリ洪水汎濫ノ患頻繁ヲ加フル傾向ナキニアラズ。

#### 第三節 交通



中生層山地ト第三紀岳陵地及ビ第四紀平原トニ於テ交通ノ狀況ヲ異ニセリ先ヅ中生層ヨリ成レル山地ハ地形高峻ニシテ交通不便ナレドモ西北ヨリ東南ニ向テ幾多ノ横谷アリ此溪谷ニ沿ヒ道路開拓セラレ佐土原町ヨリ妻ヲ經テ西米良村大字村所ニ通ズル縣道ノ如キハ幅廣ク傾斜緩ニシテ車馬ヲ通ズルコトヲ得、村所ヨリ横谷峠ヲ經テ熊本縣球磨郡多良木ニ通ズル縣道中熊本縣ニ屬スル部分ハ既ニ新道ヲ開鑿完成シ車馬ノ交通自在スレドモ宮崎縣ニ屬スル部分ハ縣境ヨリ東方約一里ノ間新道完成シタルニ過ギズ、尙村所ヨリ約四里ノ間ハ舊道ニシテ人馬ヲ通ズルニ過ギズ、上記ノ外中生層中ニハ車ヲ通ズベキ道路ニ乏シ。

中生層地域ヲ流ル、川流ハ何レモ積礫磊々タル急流ニシテ舟筏ヲ上下スルヲ得ズ、且ツ概シテ中生層傾斜ノ方向ニ反對ニ向ヘルヲ以テ曲折迂餘殊ニ甚ダシク溪谷亦甚ダ深峻ナルヲ常トセリ從ツテ河流ニ沿ヘル交通ノ路ハ急斜面ノ中途ニ設ケタル棧道多ク時々一部崩壞シテ交通ノ杜絶ヲ來スコトアリ西米良村ヨリ上穂北村ニ通ズル米良川ニ沿ヘル縣道ノ如キ其ノ適例ナリトス。

第三紀岡阜地ハ平坦ナレドモ處々ニ地隙アリ又低地ヨリ岡阜地ニ至ルニハ必ズ急坂路ヲ上ラザルヲ得ズ交通上多少ノ不便ヲ免レズ。

#### 第四節 氣候

氣候ハ概要東諸縣郡ノ報告ニ記述シアルガ如シ、只本郡ハ縣内屈指ノ大郡ニシテ東方海岸地方ト西部山地トハ多少氣候ヲ異ニシ一般ニ山地ハ低地ニ比シテ寒氣凜烈ニ霜雪多ク氣溫ノ變化亦急激ナリ。

氣候ノ溫暖ナルタメカ材木ニハ杉、檜、樅、檜等ノ常綠樹多ク落葉樹少ナク冬期モ鬱蒼トシテ冬枯レノ蕭條タル景趣ヲ現出スルコトナシ。

#### 第五節 地質

本地域ヲ構成スル地質左ノ如ク區分セラル。

- 一、中生層
- 二、第三紀層
- 三、第四紀洪積層
- 四、第四紀沖積層
- 五、石英斑岩

一、中生層  
本郡内山地ハ中生層並ニ石英斑岩ニシテ石英斑岩ハ尾鈴山、黒原山以東ノ地域ニ發展シ其他ノ部分ハ殆んど全部中生層ヨリ成レリ。

岩石ハ灰色又ハ褐色硬砂岩並ニ黝灰色粘板岩ヨリ成リ最モ廣ク發展セルハ後者ナリトス、又粘板岩片ガ圓礫狀ヲナシテ砂岩中ニ介在スルモノアリ、又砂岩ガ扁桃狀ヲ爲シテ粘板岩中ニ介在スルコトアリ。

砂岩中不完全ナル木葉ヲ印スルモノアレドモ何種類ノモノナルカヲ知ルニ由ナシ、又本區域中ニハ輝綠凝。

灰岩ヲ觀ズ。

岩層一般ノ走向ハ北三十度東乃至北六十度東ニシテ西北ニ向ヒ三十度乃至六十度傾斜セリ。

中生層ノ如露面ハ上穂北村ヨリ西良米村ニ至ル間米良川(一ノ瀬川ノ上流)兩岸ノ懸崖ニ歷々タリ。

地殼變動ニヨリ強壓ヲ受ケタル結果粘板岩皺襞頗ル微細複雑ニシテ細片ニ破碎シ易シ。

粘板岩ノ石英斑岩ト接觸セル部分ハ珪石質ヲ帶ビ硬化シ Hornfels ニ近ヅケリ。

### 二。第三紀層

主トシテ砂岩、頁岩ノ累層ヨリ成リ往々圓礫岩ヲ交ヘ茶白原及佐土原、都於郡、廣瀬附近ノ岡阜地ノ基部ヲ占ム、一般ノ走向ハ北三十度東乃至北四十度東、南ニ五度乃至十五度傾斜シ中生層ノ上ヲ不整合ニ被覆セリ、圓礫岩ノ發達セルハ三財村附近ニシテ礫ハ主トシテ中生代硬砂岩ヨリ成レリ此第三紀層ハ宮崎縣内ニ發展スル第三紀層中南那珂郡地方ノモノニ比シ新紀ニ屬シ地質ノ變動ヲ受ケタルコト彼ニ比シテ少ナシ、砂岩ハ黃褐色ニシテ粗粒ナルモノハ漸次圓礫岩ニ移化シ性質ハ概シテ軟弱ナリ頁岩ハ灰色ヲ呈シ多少凝灰質ヲ帶ビ又砂質ヲ交ヘ、凝灰質砂岩ニ移化セルモノアリ概シテ軟質ニシテ其ノ上ヲ被覆セル洪積層粘土ト識別シ難キ場合アリ高鍋町ノ南方富田村日置ニ於ケル凝灰質砂岩ヨリ珊瑚類、腕足類、葉總類、腹足類ノ化石ヲ數多產出シ妻町ノ東ヨリモ少シク貝化石ヲ產シ都於郡ノ西北ナル粘土質頁岩中ニハ貝類ト共ニ不完全ナル海膽類ノ化石ヲ產出ス。

上下穂北村ノ丘陵地ニ於テハ浮石質砂厚層ノ下ニ第三紀灰色粘質頁岩アリテ其ノ中ニ厚サ七八寸ノ褐炭ヲ介在セリ妻町ノ西北約一里杉安西方ノ丘陵地ニツ池附近ニ其露頭アリテ數箇所ニ舊坑存在セリ。

### 三。第四紀洪積層

洪積層ハ唐瀬原ノ茶白原並ニ都於郡ニ於ケル岡阜地ニ第三紀層ヲ被覆シ廣ク發展セリ。

礫母ハ浮石質砂粘土及砂礫ノ厚層ヨリ成リ礫層ハ其最下部ヲ占ム、上穂北村ニ於テハ礫層ノ代リニ浮石質砂層發達セリ礫ハ上部ヲ占メ黃褐色ヲ呈シ火山灰ヲ交ヘ有機質物ノ腐蝕ニヨリテ黑色ニ浸染セラレ地表附近ハ一部黒土トナレリ都農附近殊ニ多シ。

礫ハ主トシテ中生層岩ヨリ成リ就中硬砂岩多ク大丸川以北ニ於テハ石英斑岩礫多シ是レ上流ニ廣キ石英斑岩ノ地域アルニ因ル。

一ノ瀬川以北ノ臺地ニ於テハ第三紀層ノ傾斜ハ頗ル緩ニシテ水平ニ近ク洪積層ハ其ノ上ヲ整合ニ被覆セルガ如キモ上下穂北及都於郡附近ニ於テハ東南ニ斜下セル第三紀層ノ上ニ厚積層ハ水平ニ成層シ兩者ノ關係ハ不整合ナリ。

### 四。第四紀沖積層

沖積層ハ大丸川一ノ瀬川ノ如キ河流ノ沿岸又ハ岡阜地間ノ低平ノ地ヲ占メ未ダ固結セザル粘土砂礫ヨリ成リ地盤軟弱ナリ、是等ノ地域ハ近代迄水面下ニアリタルモノニシテ河流ノ土砂堆積作用ト海岸一帯ノ地盤昂

隆作用トニヨリ乾陸トナリタルモノナリ、現今尙上流ヨリ盛ニ土砂ヲ流下シ來リ河床又ハ海濱ニ之レヲ堆積シツ、アリ海岸ニハ風浪ノ作用ニヨリ打寄スル土砂ノタメニ砂洲ノ發達セルヲ觀ル、一ノ瀬川口ノ如キ其ノ著シキモノナリ。

#### 五、石英斑岩

石英斑岩ハ本地域内ニ於テ尾鈴山、矢筈山、黒原山以東細島並ニ美々津ノ海岸ニ至ル迄廣大ナル地域ヲ占メ西米良地方ニ於テハ天包山ノ北ヨリ天狗岩ノ南ニ至ル約五里間中生層ヲ貫通シ北々果ヨリ南々西ニ走ル一大岩脈ヲ爲シ其ノ中ニ幾多ノ安質母尼鑛脈ヲ胚胎セリ、淡灰色又ハ褐色ヲ帶ビ岩質堅緻ニシテ巨大ナル正長石、石英ノ斑晶ヲ散在スルヲ其ノ特徴トス就中正長石ノ結晶多ク長サ數種ニ達スルモノ稀少ナラズ「カルスバッド」式雙晶多シトス。

石基ハ微晶質ニシテ石英、正斜長石、角閃石、磁鐵鑛、褐雲母等ヨリ成リ角閃石ハ晶形ヲ呈セズ大部分分解シテ綠泥質物ニ變ジ長石ハ大部陶土化シ新鮮ナルモノ稀ナリ。

天狗山ヨリ天狗岩ニ至ル一大岩脈ヲ爲セル石英斑岩ハ中央部ニ於テハ石英、長石ノ巨大ナル結晶散點スルモ其縁近ヅクニ從ヒ斑晶其ノ大サヲ減ジ石英長石ノ微粒相集マレル石基中ニ石英ノ斑晶點在シ正長石ヲ交フル石英粗面様ノ岩石トナリ遂ニ一部ハ斑晶大ニ減ジテ細粒質ノ石英、長石、雲母ヨリ成レル微花崗岩又ハ白粒岩(Granulite)ニ轉移セルヲ觀ル。

コノ岩脈ヲ成セル石英斑岩ハ中生層ヲ貫通シ其周圍ニ於ケル粘板岩ノ一部ヲ硬化シ Hornfels ニ似ル岩石ヲ形成セル處アリ。

### 第六節 鑛物

本郡ニ存在スル鑛物ハ第一、安質母尼ニシテ之ニ次ギテ銀、鉛、亞鉛、石炭ナリ。

安質母尼ハ中生層ノ砂岩ト頁岩トヲ貫キテ噴出セル石英斑岩ノ大岩脈アリテ、其ノ岩脈ハ村所ノ南方約二里半ヲ距テタル天狗岩鑛山ノ南方ヨリシテ北々東ニ走リテ、村所ノ東ヲ過ギテ天包鑛山ノ頂上ニ及ビ尙東北ニ曲レルモノニシテ其ノ幅ハ露頭部ニ於テ狭キ所ニテ四五十間、廣キ所ニ於テハ數町ニ亘ル所アリ安質母尼鑛床ハ必ズ此ノ石英斑岩ノ岩脈ト連關ス、或ハ石英斑岩ト中生層トノ境界ニ鑛床ヲ生ズルコトアリ又石英斑岩中ノ石英脈中ニ胚胎セルコトアリ、又稀ニハ全ク中生層ノ中ニ脈狀ヲナシテ存在スルコトモアリ、其ノ中ニ鑛脈ヲ成セルモノハ三財村大字寒川字蛇籠俗稱軍財切ナル所ニアリ、三財村役場所在地ヨリ約六里ノ山中ニアリ是ハ中生層ノ砂岩中ニ特ニ珪石質ニ富メル部分ニ安質母尼鑛ヲ胚胎セリ此處ニ中生層ハ東北ニ走リ西北ニ急斜シ鑛床ハ東々北ニ走リテ東南ニ急斜ス脈石ハ珪石質ノ砂岩ニシテ、其ノ中ニ輝安質母尼鑛ガ柱狀又ハ針狀ヲ爲シテアリ又一部放射狀ニ集ル所アリ又全ク不規則ニ散點スル所アリ、上鑛ハ百分中約五十ノ安質母尼ヲ含ミ微量ノ銀ヲ含有ス其ノ鑛量ハ餘リ豊富ナラザル様ナレドモ尙ホ探鑛不十分ナルヲ以テ、今後ノ探鑛ノ結果ヲ待ツニ非ザレバ十分ナル斷案ヲ下シ難シ、石英斑岩ト中生層トノ接觸部或ハ石英斑岩ノ中ニ存在

スル安質母尼鑛床ハ數多アリテ其ノ中主要ナルモノハ天包安質母尼鑛山、村所ノ東方ナル廣瀬安質母尼鑛山及ビ天狗岩安質母尼鑛山ノ三者ナリ、天狗鑛山ハ海拔約千二百米ノ天包山ノ南方斜面ニアリテ明治十五年頃ノ企業ニ係ル續々鑛業者變リテ明治三十六年ニ至リテ事業ヲ始メタルモノ向振ハザリキ、其ノ後現鑛業者ノ手ニ入リテ以來明治四十四年頃ヨリ大ニ探鑛ニ勉メ今尙探鑛シツ、一面ニハ探鑛ヲ繼續セリ主要ナル鑛脈ハ四條ナルガ尙探鑛ノ結果ニヨレバ數十條ノ鑛脈ガ殆ンド平行ニ走レル狀況ナリ、其ノ走向ハ北七十度乃至八十度東ニシテ西北ニ七十度乃至八十度急斜ス、脈石ハ石英ニシテ脈幅ハ三寸乃至四寸ヨリ一尺内外ヲ通例トス往々幅二三尺ニ達スルモノアリ。

鑛石中ニ産スル鑛物ハ主ニ輝安質母尼鑛ニシテ硫砒鐵鑛、黃鐵鑛、閃亞鉛鑛、少量ノ方鉛鑛及ビ輝銀鑛ヲ伴隨ス、輝安質母尼鑛ハ柱狀又ハ纖維狀ヲ爲シテアリ、結晶ノ大ナルモノハ長サ五六分アリ、脈石ト石英斑岩トノ間ニ稍々不判明ナル帶狀ヲナシテ存在スルモノ、如シ、其ノ他ノ部分ハ不規則ニ安質母尼鑛ガ散點ス、上鑛ハ百分中約五十ノ安質母尼ヲ含ミ下鑛ト雖ドモ百分中十五ヲ含ム、尙少量ノ銀分ヲ含ミ輝安質母尼及ビ硫砒鐵鑛ハ少シク深ク掘リ下ル時ハ頓ニ減ズル傾キアリ而シテ閃亞鉛鑛増加シ硫化鐵モ増加ス處ニヨリテハ銀分ニ富メリ此ノ部分ハ安質母尼鑛トシテヨリモ銀鑛トシテ價值アリ、將來漸次掘下ルニ從ヒ本鑛山ハ漸次銀亞鉛鑛山ト爲ラントスル傾向アリ、山ハ甚ダ高ク且ツ大ニシテ鑛脈ノ數亦多キヲ以テ今後大ニ探鑛ノ事業ヲ進ムルニ於テハ種々趣味アル事實ガ發見セラル、ナラン。

廣瀬鑛山ハ西米良村大字村所字廣瀬ニ位置シ村所ノ東約半里ノ所ニアリ、此ノ鑛山ハ明治三十年頃ノ發見ニ係リ、明治四十年現鑛業權者ノ手ニ移リテ四十一年度ニ於テハ僅カニ半年間二千四百貫ノ鑛石ヲ產出シタル程ノ盛況ヲ呈シタルコトアリ、其後間モナク安質母ノ値ガ暴落シタルタメ遂ニ休山セリ、鑛床ハ石英斑岩中ノ石英脈ニシテ東西ニ走リテ北ニ四十度許傾斜ス脈幅ハ二尺四五寸ヨリ約四尺ニ達ス其ノ中安質母尼鑛ノ帶狀ニ入レル幅ハ約七乃至八寸アリ、此ノ鑛ノ外ニ又一ツノ鑛脈アリ、西北ニ走リ東北ニ傾斜ス、百分中五十位ノ安質母尼ヲ含有ス可ナリ鑛石ヲ採リタル跡モ多ク未ダ掘リ殘シタル所モ多クアリ將來是レ等ノ掘採ヲナスト同時ニ一面ニ探鑛ヲ進メタランニハ新シキ有利ナル事實ノ發見セラル、コトアルベシ。

天狗岩鑛山ハ西米良村大字横野字源治小屋ニアリテ明治二十八年ノ發見ニ係リ明治三十一年頃ニハ約二百人ノ坑夫ヲ使役シテ盛ニ稼行セシガ三十一年末ニ休業セリ、明治三十九年末ニ現鑛業權者ノ有トナリ事業ヲ再開シ坑夫二十三名ヲ使役シテ一ヶ月千貫以上ノ鑛產額アリ一時盛況ヲ呈シタリシガ四十三年七月安質母尼市價暴落ノタメ事業ヲ休止スルニ至レリ、又近來事業ヲ再開シ探掘ニ從事シアルコトヲ聞ク、鑛床ノ存在スル場所ハ天狗岩ト稱スル海拔約千百米ノ急峻ナル山ノ絶頂ナリ、鑛脈ハ一條ニシテ東西ニ走リ北へ六十度乃至七十度傾斜ス鑛幅ハ二尺内外ニシテ盤際ニ近ク輝安質母尼鑛ガ幅一乃至二寸ノ帶狀ヲナシテ存在ス、其ノ部分時ニ膨大シテ厚サ一尺許ニ達スル處アリ此ノ帶狀以外ニハ石英脈石ノ中ニ安質母尼ノ散點スルアリ、中生層ノ粘板岩ノ中ニモ幾多ノ小枝脈ヲ出セリ、外ニ少量ノ硫砒鐵鑛黃鐵鑛アリ、安質母尼ノ含有率ハ百分中五

十内外ニシテ少量ノ銀分ヲ含有ス此ノ鑛床ハ一條ニ過ギザレドモ厚サ正シク定マリテ走向ノ方角ニ延長シア  
 ルコト少クモ二百尺乃至三百尺ニ及ブモノ、如シ、其ノ各所ヨリシテ安質母尼鑛ヲ採掘ス、今後尙多量ノ鑛  
 石ヲ採掘スルコトヲ得ベク尙南方ニ探鑛ノ餘地アリテ之ヲ探レハ新シキ鑛床ヲ發見スルコトナキヲ保セズ  
 銀、亞鉛鑛ハ木城大字鶴懷小字金山谷ニアリ、地質ハ中生層ニシテ鑛床ハ中生層粘板岩ヲ貫通シテ出デタ  
 ル石英斑岩トノ境界ニ生成シタル變質交代鑛床ナリ北七十度西ニ走リテ東北ニ約七十度傾斜ス、鑛床ノ幅廣  
 キ處ハ約一尺ニシテ狭キ處ハ數寸ニ過ギズ方鉛鑛、閃亞鉛鑛、黃鐵鑛ガ復雜ニ交雜セリ脈石ハ石英ナリ、少  
 量ノ金銀分ヲ含有シ亞鉛鑛トシテ貧鑛ナリ、舊坑ニケ所許アリ未ダ探鑛ノ事業進マズ故ニ目今鑛石ノ品位劣  
 等ニシテ鑛量モ豊富ナラザル様ナリ、將來探鑛ノ上如何ニ變化スルカ測知スベカラズ、西米良村大字上米良  
 字横ノ口、小字蓼ノ河原ニ中生代ノ硬砂岩アリ其ノ中ニ石英脈アリ、網狀ヲナス、幅一二寸ニシテ北七十度  
 西ニ走リテ南ニ傾ク此ノ鑛床ハ餘リ小ナル故ニ有望ナルモノニモアラザレドモ其ノ東方溪流中ニ粘板岩アリ  
 幅一寸位ノ亞鉛鑛脈アリ北西ニ走リテ直立シ百分中約十ノ亞鉛ト七乃至八ノ鉛ヲ含有ス、品位劣等ニシテ鑛  
 量モ少キ様ナリ。

石炭鑛ハ上穂北村大字南方岩河内ヨリ下穂北村大字三宅小字長尾谷ニ亘リテ一帯ノ低キ丘陵地アリ、浮  
 石質砂岩ノ下ニ第三紀ノ鼠色頁岩アリ、其ノ間ニ厚サ六七寸ヨリ一尺内外ノ褐炭層ヲ挾メリ北四十度東ニ走  
 リテ東南ニ五六度傾斜ス、舊坑ニケ所許アリ何レモ石炭ヲ試掘セシモノナリ。

是レヨリ東南ニ方リテ數箇所ニ舊坑アリ、第三紀頁岩ノ間ニ一尺二三寸ノ炭質頁岩ヲ介在ス、此石炭ハ性  
 質劣等ナルモノニシテ燃料トシテ適當ナラズ、サレド地層ノ變化比較的少キ所ナレバ適當ナル地ヲ擇ビテ試  
 鑛セバ下部ニ炭層ヲ發見スルヤモ測ラレズ現今其ヨリ半里許ナル妻町マデ鐵道開通シ交通甚ダ利便ナレバ若  
 シ茲ニ炭層ヲ發見シテ其カ燃料トスルニ足ルトキハ厚サ一尺許ニテモ稼行スル價値アラン。

之レヲ要スルニ兒湯郡ニテハ將來產額ヲ増加スルト認ムルハ安質母尼ニシテ交通ノ便ノ加ハリ探鑛ノ進ム  
 ト共ニ益々發展スルコトナラン、銀亞鉛鑛ハ其ノ所在地ハ大ニ不便ナル故亞鉛ハ鑛石ノマ、ニテ搬出セザル  
 ベカラザルヲ以テ亞鉛ノ稼行ハ頗ル艱難ノコトナラン、加之銀鑛トシテモ亞鉛鑛トシテモ品位良好ナラズ將  
 來探鑛ノ結果品位ノ良好ナル鑛石可ナリ多量ニ存在スヘキ見込立タザレバ發達ノ程覺東ナシ石炭鑛ハ二三個  
 所ニ試鑛ヲ施サバ炭層ノ有無ヲ知ルニ至ラン。

### 第五章 東諸縣郡

#### 第一節 位置

東諸縣郡ハ宮崎縣ノ中部ニ位シ北ハ兒湯郡、西ハ西諸縣郡、東ハ宮崎郡ニ境シ宮崎縣各郡中廣袤ノ最モ小  
 ナリ。

#### 第二節 地形

西北郡境附近ニハ磐木山、御名子山、大森嶽(標高千百〇三米)等ノ高峻ナル連嶺聳立シ岩骨崔嵬ノ地形峻嶮ナルモ是等ノ高山ヨリ東南ニ向ヘル連山ハ畧々七個ノ列ヲナシテ漸次東南ニ陵夷シ遂ニ海拔二十三乃至百米ノ低平ナル臺地ヲ形成シ宮崎郡ノ低原ニ移ル。

河流ノ稍々大ナルハ綾北川、綾南川及繩瀬川ノ三ナルガ何レモ堅硬ナル岩盤ノ間ヲ流ル、ヲ以テ狹隘ニシテ深キ溪谷ヲ爲シ加之迂餘曲折甚シク處々奔潭、岩ニ激シ或ハ凄然タル深淵ヲ爲シ或ハ岩塊ノ突兀トシテ河床ニ横ハレル處アリ舟筏ヲ上下スルヲ得ズ。

川流ノ方向ハ概シテ西北―東南若クハ西―西北―東々南ニシテ地盤ヲ構成セル中生層一般ノ走向ト直角ニ近ク傾斜ノ方向ト相反セリ是山谷ノ頗ル急峻ナル一原因タラズンバアラズ。

第三紀新層又ハ火成岩ヨリ成レル卓子原ハ是レ此地方特有ノ地形ニシテ第三紀新層ノ頗ル緩傾斜ヲ以テ累重セルト火山噴出物ノ厚層ガ其上ヲ被覆セルトハ自然ニ此ノ特殊ノ地形ヲ形成シタルモノナル可ク卓子原上ハ多ク畑地ヲ形成セルモ灌溉用水引入ノ道ヲ講ズルニ於テハ之ヲ水田ト爲スコト亦難キニアラザルバク卓子原中ニ散在スル大小ノ地隙ハ貯水池トシテ最モ適當ナル可シ。

中生層山岳ニハ樅、榎、一位、杉、樟ノ如キ常緑樹ノ巨幹鬱蒼タル森林多ク第三紀又ハ第四紀岳陵地ニハ雜草雖々タル原野多シ。

### 第三節 交通

山地ニ於テハ地形頗ル峻嶮ナルヲ以テ溪流ニ沿ヘルモノ、外ハ道路甚ダ險惡ナリ、西諸縣郡紙屋ヨリ高岡ヲ經テ宮崎町ニ通ズル道路ハ最モ良好ニシテ車馬ノ交通自由ナリ是ニ次グハ高岡ヨリ都城ニ通ズル道路ナルガ處々一部破損セル處アリ又綾北川上流ナル惣見ヨリ綾村ニ至ル間ハ東北側ニ材木運搬ノ爲メ特ニ設ケラレタル道路アリ大部峻谷側ノ棧道ニシテ材木運搬車(木馬)ヲ通ズベク傾斜緩ニシテ歩行艱難ニアラズ又綾北川南側ニハ目下林道開鑿中ナリ、卓子原上ハ平坦ニシテ縱横ノ交通自由ナルモ處々ニ地隙ノ存スルアリ加之低地ヨリ卓子原上ニ至ルニハ急斜面ヲ登ラザルヲ得ズ故ニ低地トノ間交通多少不便ヲ免レズ。

要之地形西北ヨリ東南ニ陵夷シ川流ノ方向亦コレニ一致スルヲ以テ東西若クハ西北東南方向ハ交通比較的困難ナラザルモ南北若クハ東北、西南方向ニハ丘陵起伏シ交通割合ニ不便ヲ免レズ、川流ハ何レモ急激ナルヲ以テ材木流下ノ外水運ノ便ヲ利用スルコトヲ得ズ加之山林濫伐ノ結果洪水汎濫ノ患ト共ニ瀕繁ニシテ橋梁ノ流失道路堤塘ノ破壊多キハ交通上ノ一大缺點ナリトス。

### 第四節 氣候

氣候ハ暖和ニシテ日照量多ク直ニ日向ノ名ニ背カズ盛夏ノ氣溫華氏九十七、八度ニ上ルコト往々アルモ冬季氷點以下ニ下ルコト稀ナリ四、五、六月ノ雨ハ頃多ケレドモ十一月ヨリ翌年三月頃マデハ晴天打續キ雨少ナク霜雪亦多カラズ溫暖ニシテ氣溫ノ激變ナク九州各縣中ニ於テハ氣候最モ良好ナリト稱セラル只八月頃暴風雨ノ襲來多ク洪水汎濫ノ患頻々タルハ縣民一般ノ最モ苦慮スル所ナリ。

## 第五節 地質

本地域ヲ構成スル地質ハ左ノ如ク區分セラル。

- 一、中生層
- 二、第三紀層
- 三、第四紀洪積層
- 四、第四紀沖積層
- 五、火山灰及灰石

### 一、中生層

中生層ハ本郡西北部山地ヲ占メ主トシテ灰色硬砂岩、黝灰色頁質粘板岩ヨリ成リ往々赭綠色、凝灰岩ヲ介在セリ一般ノ走向ハ東北又ハ東、東北ニシテ西北ニ向ヒ四五十度傾斜セリ岩層中最モ多キハ頁質粘板岩ニシテ強壓ヲ受ケタル結果難頗ル複雑ニシテ薄板ニ剝離スル性著シク建築石材等應用ノ途ナシ綾村ヨリ綾北川ニ沿ヒ同村大字惣見ニ至ル間ニ於テ本岩ノ見事ナル露面アリ砂岩ハ黝灰色又ハ灰青色ヲ帶ビ寧ロ細粒ニシテ質頗ル堅硬ナリ附近民家ノ石垣等ニ使用セラル、ヲ觀ル粘板岩ニ次ギ多量ニ存在スルヲ以テ將來交通ノ便發達スルニ於テハ應用ノ途亦開クルニ至ルベシ。

輝綠凝灰岩ハ高岡町ノ西南大字五町大工次郎ノ谷及ビ字松ヶ八重、花峯鑛山附近ニ於テ其露頭アリ、赤色

又ハ綠色ヲ帶ビ又斑色ヲ呈スルモノアリ堅緻ニシテ往々圓礫狀ヲ爲セルモノアリ。

砂岩中往々粘板岩ノ破片ヲ數多介在セルモアリ、又不完全ナル植物葉根ヲ印スルモノアルモ其ノ何種類ニ屬スルカヲ知ルニ由ナシ。

### 二、第三紀層

第三紀層ハ主トシテ砂岩、頁岩ノ累層ヨリ成リ往々圓礫岩ヲ雜ヘ高岡町ノ南及ビ綾村ノ東北ニ於ケル低丘陵地ヲ占メ又浦ノ名川及ビ綾南川兩側ニ於テ火山灰砂ヨリ成レル丘陵地ノ基部ヲ構成セリ。

走向ハ概シテ西北ニシテ東北ニ四五度傾斜シ中生層ノ上ヲ不整合ニ被覆セリ。

砂岩ハ褐色ヲ呈シ多クハ細粒質ナルモ多少凝灰質ヲ帶ビ堅實ナラズ頁岩ハ灰色又ハ青色ヲ帶ビ軟質ニシテ多少凝灰質ヲ雜ヘ又往々砂質ヲ帶ベルモノアリ。

岩質及ビ兒湯郡高鍋地方ニ産スル化石ヨリ推定スルニ此第三紀層ハ宮崎縣下ニ發展セル第三紀層中新層ニ屬シ恐クハ鮮新紀(Pliocene)ニ成レルモノナランカ。

### 三、第四紀洪積層

洪積層ハ綾村ノ西北及ビ本莊村附近ノ岡阜地ニ第三紀層ヲ被覆シテ敷衍シ水平ニ成層シ砂礫ノ厚層ト砂及ビ粘土ヨリ成リ墟垣其上ヲ蔽ヘリ砂ハ粗粒質ニシテ多少ノ浮石ヲ雜ヘ礫層ニ漸移スルコト多シ、墟垣ハ黃褐又ハ赭褐色ヲ帶ビ地表ニ近キ部分ハ有機質物ノ分解浸染ニヨリ黝黑色ヲ呈セリ往々多量ノ火山灰ヲ混ジ火山

灰層ト識別スベカラズ、砂礫ノ厚層ハ往々厚サ數十尺ニ達スル處アリ。

#### 四、第四紀沖積層

河流ニ近キ低地ヲ占メ砂礫、粘土ヨリ成ルモ何レモ尙固結セズ軟弱ナル地盤ヲ構成シ大部田圃ヲ爲セリ。

#### 五、火山灰及灰石

火山灰及灰石ハ本郡ノ中央部高岡附近ノ岡阜地ヲ占メ主ニ洪積世ヨリ沖積世ニ亘リテ霧島火山地方ヨリ噴出シタルモノ、如ク浮石、火山灰、火山砂、火山岩屑及ビ火山泥流ノ固結シタルモノヨリ成リ灰石ハ暗灰色ヲ帯ビ一面ニ於テハ玻璃質熔岩ニ近キモノアリ他方ニ於テハ灰泥及ビ多量ノ火山岩屑ヲ含ミ火山灰ト區別シ難キモノアリ通常後者ハ上部ヲ占メ漸次下方ニ至ルニ從ヒテ前者ノ性質ヲ帯ベリ灰石ノ堅緻ナルモノハ柱狀又ハ板狀節理ヲ呈シ建築石材トシテ使用セラル。

浮石、火山灰層ノ原層(厚サ三、四十尺)ハ高岡村田ノ平ヨリ久木ノ野ニ至ル丘陵ノ懸崖ニ是ヲ觀ルベク灰石ハ綾村ヨリ椎屋ニ至ル新道ノ開鑿ニ於テ其露面歷々タリ。

#### 第六節 鑛物

本郡ニ存在スル鑛物ハ金、銅、亞炭ナリ。

金鑛ハ綾村大字北俣、中尾官林字金山谷ニ中生代ノ砂岩、粘板岩ノ累層中ニ石英脈アリ其ノ中ニ金銀分ヲ胚胎ス、鑛脈ハ北八十度東ニ走リテ西北ニ八十度傾斜ス更ニ他ノ一鑛脈ハ北八十度西ニ走リテ北東へ六十度

傾ク、幅約一尺乃至一尺五寸ニシテ平均一尺二三寸ナリ、第二ノ鑛脈ノ幅約八寸ナリ、此ノ鑛脈ノ幅ハ齊一ニシテ變化甚ダ少ナシ、此ノ金山ハ明治四十年十一月マデ島津家ニ於テ稼行セラレタルモノニシテ其ノ後休山セリ、合金品位ハ百分ノ七乃至八ニシテ含銀ノ品位ハ百萬分ノ四乃至五ナリ、品位餘リ良好ナラザレドモ脈幅ノ一定セルコトハ有利ナル點ナリ、嘗テ交通甚ダ不便ノタメニ休山セラレタル様ナレドモ今後探鑛ヲ進ムル時ハ尙良鑛ヲ得ラレザルコトナカルベシ其レヨリ綾北川ヲ距デテ東ノ方ニ綾北川ノ北側ニ中生代ノ硬砂岩ノ中ニ幅五六寸ノ石英脈アリ此ノ脈ニハ硫砒鐵鑛ノ大ナル結晶ヲ挾ミテ石英脈ノ幅三尺ニ達スルモノアリ此脈ナドモ金鑛ヲ探鑛スルニ適當ナルモノナラン、其ノ在ル場所ハ大字北俣、北浦官林ノ傳助谷ナル所ナリ、尙綾村ニ於テハ大字南俣中尾官林中ニ古生層ノ間所々石英脈存在シ是等ノ石英脈ノ中ニハ注意シテ探鑛セバ金銀分ヲ含有スルモノアラン試ニ之レヲ分析シタルニ金ノ痕跡ヲ認ムルコトアルヲ以テナリ、綾村大字北俣、北浦官林字惣見俗稱ニクアナダニナル峻險ナル溪流中ニ上盤砂岩、下盤頁岩ニテ其ノ間ニ石英脈アリ幅二尺アリテ北八十度東ニ走リ東南ニ八十度傾斜セリ。

高岡村大字五町字松ヶ八重ニ中生代ノ輝綠凝灰岩ノ中ニ銅鑛床アリ、第一坑ニ於テハ北二十度西ニ走リテ東北ニ六十度傾斜シ鑛幅約一尺アリ、酸化銅鐵ガ露頭ニ多ク又孔雀石ヲ多ク散在シ露頭約四十間連續ス第二坑ノ露頭部ハ北四十度東ニ走リテ西北ニ六十度傾斜ス脈幅四、五尺アレドモ扁桃狀ヲナス、品位ハ百分ノ十五ヲ含ミ下鑛ハ百分ノ三ヲ含ミ少量ノ金銀分ヲ含有ス、此ノ銅鑛床ハ尙將來探鑛ヲ進ムル時ハ更ニ品位ノ向



上ト鑛量ノ如何モ知ラル、コトナラン。

亞炭ハ高岡村大字浦ノ名ニ於ケル丘陵地ヨリ高岡村ノ北方ニ連ル丘陵地ニハ二三ノ泥炭層ヲ介在ス、浦ノ名字久木ノ野於テハ洪積層タル浮石ヲ雜ヘタル砂質粘土ノ下ニ三層ノ亞炭アリ上層ハ厚サ一尺、中層ハ一尺五寸、下層ハ二尺許アリテ北七十度西ニ走り東北ニ四度乃至五度ノ緩傾斜ヲ爲セリ此ノ亞炭層ハ廣ク此ノ附近ノ丘陵地ニ分布スルガ如ク西諸縣郡紙屋村大字石瀬戸ニ石炭鑛ノ鑛區アリ東ハ高岡村ノ東約半里ナル花見村字中山ノ丘陵地ニモ三層ノ亞炭ガ崖ニ見ユ、上層厚サ七八寸ニシテ中層ハ一尺、下層ハ二尺許アリ、之レハ北七十度東ニ走リテ東南ニ四度乃至五度ノ緩傾斜ヲ爲セリ、其性質ヨリスルモ其層ノ數、相互ノ關係ヨリスルモ前記ノ久木ノ野ニアリシモノトヨク類似セリ依テ附近一帶ニ分布スルモノ、如シ然レドモ灰分多ク炭素分甚ダ少ク從ツテ發熱量甚ダ小ニシテ燃料ニ適セズ。

要スルニ本郡ノ鑛物ハ未ダ探鑛ノ甚ダ幼稚ナル域ニアレドモ將來探鑛進メバ銅ト金トハ多少ノ產出ヲ見ルニ至ラン。

## 第六章 西諸縣郡

### 第一節 位置

本郡ハ縣ノ西端ニ位シ、東部乃至南部ハ兒湯、東諸縣及北諸縣ノ各郡ニ界シ北ハ熊本縣球摩郡、西ハ霧島

火山脈ヲ以テ鹿兒島縣始良、噺噺ノ兩郡ニ隣接シ東西約十里南北約七里ノ菱形ヲ爲シ面積約四十方里ヲ占メ郡ノ首邑小林町ハ鹿兒島本線、吉松驛ヨリ汽車約十七哩縣廳所在地タル宮崎町ヨリ約十四里ニアリ。

### 第一節 地形

北部ハ所謂南部九州山系ノ西翼ヲ爲シ中生層ニ屬シ頁岩、砂岩ノ累層ヨリ成リ其走向、北東ヨリ南西ニ亘リ西北ニ急斜スト雖ドモ火山岩ノ噴出ト横壓力ノ爲メニ局所變動ヲ受ケ地會錯亂シ溪谷亦深峻ナリ南部ハ西々北ヨリ東々南ニ連亘スル霧島火山脈タル韓國嶽(一、六九九米)新燃(一、四二〇米)高千穗峯(一、一八六米)等ノ諸高峯ヲ屏立シ之等諸火山ヨリ噴出シタル火山灰ハ前記九州山系西翼トノ間ニ堆積シテ二十乃至百米突ノ高層ヲナセル卓子原ヲ構成シ東西ニ布衍シ其ノ間ヲ迂餘曲折シ西流スルハ即チ眞幸川ニシテ東南流スルモノヲ野尻川トス。

眞幸川ハ其源ヲ熊本縣球摩郡白髮岳ニ發シ中生層ヲ南流シテ本郡ニ入り下大河平ニ至リ安山岩ニ遇ヒ其方向ヲ轉ジ西流シテ火山灰層ヲ貫キ加久藤附近ニ於テ源ヲ輒岳ニ發スル池島川及長江川ニ合ヒ尙西流シテ眞幸村字龜澤ヲ經テ鹿兒島縣ニ入り川内川トナリ蜿々西流シテ川内ノ西泊ニ至リ海岸ニ注グ。

野尻川ハ源ヲ小林村ノ北端猪之子谷ニ發シ南流シテ柿ノ川内ニ至リ辻堂川ヲ合セ東流シテ北諸縣郡高城村字竹之元ノ東ニテ大淀川ニ合シ尙東流シテ宮崎町ヲ横斷シ赤江村ニ至リテ日向洋ニ注グ。

前記兩川ハ幅狹ク水淺クシテ本郡ニ於テハ其ニ舟楫ノ便ナシ。

第三節 交通

鹿兒島線吉松驛ヨリ分岐セル宮崎線ハ本郡ヲ横斷スルヲ以テ東西ノ方向ニ於テハ交通頗ル便ナリト雖ドモ北部及ビ南部ハ共ニ山岳重疊シ加久藤ヨリ熊本縣人吉ニ通ズルノ間ハ縣道アリト雖ドモ地形峻嶮道路曲折シ所謂加久藤越ノ難道ニシテ又飯野ヨリ海拔千百米突ノ海老野峠ヲ越鹿兒島縣栗野ニ通ズル山徑ハ頗ル險惡ニシテ行道稀ナル難路タリ只大正二年十月ヨリ開通セル宮崎鐵道ハ現今九州横斷旅程ノ最モ簡捷ナルモノニシテ之レ單ニ本郡ノミナラズ實ニ九州交通上ノ一大革新トイハザルベカラズ。

第四節 氣候

盛夏ノ候ニ至レバ氣溫華氏九十五、六度ニ昇ルコトアリト雖ドモ南那珂及ビ北諸縣ノ兩郡ニ比シ稍々低溫ナルヲ常トセリ又六七月ノ頃ニ至レバ降雨多ク爲メニ眞幸川汎濫シ沿岸耕地ヲシテ往々荒廢ニ歸セシムルコトアリト而シテ冬期ハ霧島嵐ノ寒風ニ伴ヒ稀ニ一寸位ノ積雪アルモ忽チ消失シテ堆積スルコトナク諸溪流亦結氷スルコトナシトイフ。

第五節 地質

本郡ヲ構成スル地質ヲ大別シテ水成岩及ビ火山岩トシ更ニ分類スルコト左ノ如シ。  
一、水成岩類

(一) 中生界

時代未詳ノ中生層

(二) 新生界

第三系

第四系

洪積統

沖積統

二、火山岩類

(一) 輝石安山岩

(二) 石英粗面岩

(三) 火山泥流岩

(四) 火山灰

一、水成岩類

時代未詳ノ中生層

本層ハ郡ノ東部及ビ北部ノ基盤ヲ構成シ頁岩質粘板岩及ビ砂岩ノ累層ヨリ成リ其一般走向ハ東北、西南ニ

シテ西北ニ二十度乃至六十度ノ傾斜ヲ爲セルモ所々ニ局部變動ヲ受ケ須木附近ニ於テハ走向約東南ニシテ北方ニ急斜シ又飯野村字養後(大迫平右衛門宅後)ニテハ東々北ヨリ西々南ニ走り西北ニ六十度ノ傾斜ヲナセリ而シテ此ノ養後ニ小露出ヲ爲セル本層ハ北方鐵山(七一五、三米)ヲ構成スル火山岩噴出ノ爲メ突破セラレタル殘層ニシテ鐵山以西ハ尙其位置ヲ火山岩ニ占領セラル、モ鹿兒島縣伊佐郡羽目村字道川内附近ニ於テ再ビ其ノ山骨ヲ顯シ西走シテ阿久根ノ南方ニ至リ中島博士(謙造)ノ所謂秩父古生層上中部ニ漸移スルモノトス、然リト雖モ此間化石ヲ發見セザルヲ以テ其ノ時代未ダ詳ナラズ。

第三系

本層ハ眞幸村字京町ノ南方ニ丘陵ヲ爲セル灰白色ノ凝灰岩ヨリ成リ時ニ或ハ浮石ヲ雜ヘ其ノ走向西北、東南ニシテ西南ニ約二十度ノ傾斜ヲ爲セリ。

本層ハ恐クハ初期火山ノ噴出物ナルベク洪積期ノ堆積ニ係ル火山灰砂ニ比較シテ著シク古觀ヲ呈スルヲ以テ茲ニ之ヲ第三系トナシタリ。

第四系

洪積統

本層ハ主トシテ火山灰、浮石砂、砂礫、ローム等ノ火山噴出物ヲ以テ構成セラレ各所ノ低丘陵地ヲ占メ層位殆ンド水平ナリ。

沖積統

本層ハ眞幸川其他ノ諸溪流ノ沿岸ニ堆積セル泥土及ビ砂礫ニシテ其他域極メテ狭小ナリ。

二、火山岩類

(一)輝石安山岩

本岩ハ眞幸川ノ南北ニ噴出シ其南部ニ露出スルモノハ即チ霧島火山脈ヲ成シ東東南ヨリ西々北ニ連亘シ玻璃質石基中ニ斜長石、輝石及磁鐵鑛ヲ散點シ北部ニ露出スル本岩ハ南部九州山系ノ西翼タル中生層ヲ突破シテ噴出シタルモノニシテ今飯野村字養後附近ニテ採取シタル本岩ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ左ノ如シ。

單晶輝石安山岩ニ屬ス。

班晶 斜長石 單斜輝石

斜長石ハ柱狀多ク概ネ双晶ヲ爲セリ但シ集片連晶ニアラズ恐クハ「アルバイト」式。若クハ「ベリク」式。双晶ナラン單斜輝石ハ短柱狀多色性强ク綠色ヨリ褐色ニ變ズ。

磁鐵鑛ハ柱狀ニシテ多量ニ散點シ輝石ニ包有セラレ。

石基 微晶質ニシテ一部玻璃ヲ雜ヘ主トシテ長石磁鐵鑛ヨリ成リ輝石ニヨリ其間隙ヲ膠結セラレ

而シテ是等造岩鑛物ノ成生ノ順序ヲ考察スルニ先ヅ斜長石ヨリ成リ次に磁鐵鑛最モ後ニ結晶シタルハ輝石ナルガ如シ。

(二) 石英粗面岩

鹿兒島線眞幸停車場ノ北砥石木場山腹ニ産シ岩質大部分白色緻密ノ陶土ニ化シ斑晶ナキモ其溪谷ニ露ハルルモノハ浮石ノ如キ粗鬆ナル珪長質石基中ニ石英及雲母ノ斑晶ヲ散點ス之レ明カニ本岩噴出當時急激ニ冷却セラレタルヲ證スルモノナリ。

而シテ本岩ハ一、二農民ニヨリ砥石ノ材料トシテ極メテ稀ニ使用セラル、ノミニシテ未ダ嘗テ陶器其他ノ材料トシテ試用セラレタルコトナシト雖ドモ停車場ニ近ク交通頗ル便ナルヲ以テ將來前記ノ材料トシテ研究ニ値スルモノトス。

(三) 火山泥流岩

小林町大字東方附近ニ於テ中生層ノ砂岩ヲ被覆セル熔岩ニシテ厚サ約十米突ニ達シ其質稍々堅硬ニシテ玻璃質石基中ニ斜長石、輝石及磁鐵礦ヲ散點ス。

本岩ハ霧島山脈諸火山ノ噴出當時猛烈ナル勢ヲ以テ附近泥土ト共ニ流出シタルモノナルベシ。

(四) 火山灰

火山灰ハ本部地質ノ大部ヲ占メ東西ニ長ク卓子原ヲナシテ布疋シ西部ニ在リテハ眞幸村字京町ノ南方ニ於テ第三紀層ヲ東部ニアリテハ野尻村及高原村ニ於テ中生層ヲ被覆シ厚サ二十乃至百米突ニ達ス而シテ其ノ成生ノ時代ヲ考察スルニ洪積紀ト認メラル砂礫層ヲ介在スル處アルヲ以テ見レバ該期ヨリ沖積期ニ亘リ堆積シタルモノナルベシ

タルモノナルベシ

今三成技師ニ依リテ報告セラレタル小林附近ノ火山灰分析結果ヲ揭示スレバ左ノ如シ。

分析結果

氣乾土百分中

水	分	一六、一〇〇	燃灼減量	二七、八九〇	
(内塩酸ニ溶解セシ珪酸〇、二五三 炭酸曹達ニ溶解セシ珪酸一〇、二九七)					
礬	土	六、〇七九	一半酸化鐵	一、〇二一	
一酸化鋁		一、二五九	石	灰	〇、三九三
苦	土	〇、一七二	加	里	〇、〇四六
磷	酸	〇、〇八三	硫	酸	一、六六六

第六節 鑛物

本部内ノ有用鑛床ハ先ヅ眞幸村ニ於ケル鐵鑛床ヲ舉ゲザルベカラズ、次ギニ飯野村ノ硫黃鑛ニシテ第三ニハ小林町ノ金銀鑛ナリ。

鐵鑛ハ眞幸村停車場附近ニアリテ今ヲ去ルコト約八十年前ニ發見セラレタルモ其ノ頃ハ稼行スルニ至ラズ明治二十年頃鹿兒島人が少シク探鑛シテ明治四十年以後現鑛業權者ノ經營スル所トナル、地質ハ輝石安山岩

ニシテ温泉及ビ噴氣ノ作用ヲ受ケテ一部分解シ白黄紫色ヲ呈ス褐鐵鑛ハ恐ラクハ鐵ヲ含メル鑛泉ノ沈澱物ニシテ温泉ハ今猶ホ吉田温泉トシテ存在ス其ノ附近ニ水酸化鐵ヲ沈澱スルノ事實アリ鑛石ニハ輝鐵鑛ト褐鐵鑛トノ二種アリ、輝鐵鑛ハ片狀ノモノ相重リテ千枚岩ヲ見ルガ如キ構造ヲ有ス、又珪岩質ノ岩石ノ裂隙ニ細脈ヲ爲スモノアリ、輝鐵鑛中ニハ少量ノ金分ヲ含有ス鐵ノ品位百分ノ六〇以上トス百分ノ四許ノ珪酸ヲ含メドモ硫黃、磷、銅ヲ含有スルコト極メテ微量ナル故ニ鐵鑛トシテ適當ナルモノナリ、褐鐵鑛ハ水酸化鐵ヲ含有セル水ヨリ沈澱シタルモノニシテ多分硫化鐵ヨリシテ硫酸鐵ヲ生ジ之レヨリ褐鐵鑛ガ漸次沈澱シタルモノナラン、含鐵ノ品位ハ百分中五十内外ニシテ磷銅ヲ含ムコト前記ノ輝鐵鑛ト殆ンド同ジ程度ナルガ珪酸ト硫黃トノ分量ハ前者ヨリモ多シ、含鐵ノ品位モ前者ヨリ劣ル故ニ鐵鑛トシテハ前者ヲ優レリトモサレドモ此ノ分量多シ採掘法ハ主トシテ露天掘ニシテ運搬ハ汽車ニ積ミ込ミ製鐵所ニ送ル故ハ採鑛ノ容易ナルト共ニ頗ル有望ナリ、殊ニ少量ノ金分ヲ含ムコトハ注目ニ價スルコトニシテ有望ノ鑛山ナリトス、大正三年度ニハ鉄ノ粗鑛十六萬三千斤ヲ産出シタリ。

飯野村ノ硫黃鑛ハ霧島火山群ノ一秀峯韓國岳ノ西麓不動ヶ池ノ南、ニ海拔約一千百米ノ高所ニアリ、明治二十五年頃ハ初メテ採鑛シタルコトアリ、其ノ後幾度變遷アリテ遂ニ大正元年ヨリ現鑛業權者ノ經營スル所ト爲ル地質ハ輝石安山岩ト霧島熔岩トヨリ成リテ是等ノ裂隙ヲ傳ヒテ噴出スル瓦斯ヨリ人工昇華法ニヨリ硫黃ヲ昇華セシメテ之ヲ採集スルナリ、ソレニハ多少硫黃分ヲ含有セル黄色ノ砂ヲ以テ瓦斯ノ噴出孔ヲ被ヒ而

シテ之レニ硫黃ヲ附着セシメ約五十日ヲ經過シテ其ノ砂ヲ採集ス。

粗鑛ノ中ニハ百分中約六十五位ノ硫黃ヲ含ム天然ニ含有セル硫黃ノ瓦斯ノ噴出スルモノナレバ人工ヲ以テ益々多量ニ採集スルコトヲ得ルナリ、故ニ有望ナル鑛業タルヲ失ハズ唯冬季積雪一尺餘ニ及ビ氣温著シク降下スルヲ以テ約二ヶ月間採集ヲ中止セザルベカラザルハ遺憾トスル處ナリ、又瓦斯ノ噴出力ノ不定ナルコトモ缺點トスル處ナリ尙激雨ニ際シテ人工裝置ノ破壊セラル、コトアリ。

年産額約五十萬斤ニ達ス。

小林ノ金坑ハ小林町停車場ノ北約二里字古ノ本ノ谿谷ニアリ地質ハ中生代ノ砂岩ニシテ其ノ中ニ幅約一尺七寸ノ石英脈アリ北七十度東ニ走リテ南ニ七十度傾斜スソレヨリ南ニ約十尺ヲ距テ、前者ト平行スル一鑛脈アリ 幅約一尺ナリ未ダ探鑛進マズ、露頭部ニ於テハ約百萬分ノ四ノ金分百萬分ノ二ノ銀トヲ含有ス。

要スルニ本郡ニ於テハ眞幸ノ鑛山ハ地表ヨリ若干ノ深サマデ採掘セバ鐵鑛ハ無クナルベシ即チ地表沈澱ノ鑛床ナルヲ以テナリ、唯露天掘ナルト運搬ノ利便ナルハ有利ノ點ナリ、硫黃鑛ハ天然瓦斯ヲ誘導シテ昇華スル方法ヲ改良シ其ノ逸出セル部分ヲ少ナカラシメ之レガ精製法ヲモ攻究セバ産額更ニ増加スルコトナラン、更ニ一步進メテ適當ナル所ニ穴ヲ穿テ天然瓦斯ヲ引クコト、セバ更ニ利スル處多カラシ、金鑛ハ未ダ探鑛幼稚ニシテ多ク言フコトヲ得ザレドモ露頭部ニ於テスラ微量ノ金、銀分ヲ認メタルヲ以テ尙探鑛ヲ進ムレバ鑛床ノ性質判明スルコトナラン。

## 第七章 北諸縣郡

### 第一節 位置

本郡ハ縣ノ西南ニ位シ北ハ東西兩諸縣郡ニ界シ東ハ宮崎、南那珂ノ兩郡ニ隣シ西部及南部ハ共ニ霧島火山脈ノ連亘ニ依リ鹿兒島縣ニ隣接シ東西約九里南北約十里ノ三角形ヲ爲シ面積約五十方里ヲ占メ縣廳所在地タル宮崎町ヨリ郡ノ首邑都城迄ハ十四里アリ。

### 第二節 地形

本郡ノ東部ヲ劃スル日向山脈ハ南那珂郡ニ於テ記述シアルガ如ク中生層ニ屬シ頁岩、砂岩ノ累層ヨリ成リ鰐塚山(一、一一九、二米)牛ノ峠(六八三米)等ノ高峯ヲ爲スモ漸次西方ニ陵夷シテ都城ノ南金御嶽(四二〇、六米)及高城ノ北岩骨山(三三七、一米)ヲ通ズル線ノ以北ハ卓子原ヲ爲セル火山灰ヲ以テ被覆セラレ一望坦々タル都城平原ニシテ地形頗ル單純ナリ。

本郡ニ於テ河川ト稱スベキハ唯大淀川アルノミニシテ本川ハ其源ヲ鹿兒島縣噓呷郡末吉ノ南ニ發シ都城平原ヲ北流シテ西方霧島火山脈並ニ東方郡界ノ諸峯ヨリ東流又ハ西下スル諸溪流ヲ聚メ尙北シテ高城村字竹ノ元ノ東ニ至リ別ニ源ヲ西諸縣郡ノ北端ニ發スル野尻川ヲ併セ其方向ヲ轉ジ蜿蜒々東流シテ宮崎町ヲ横斷シ赤江村ニ至リ日向洋ニ注グ而シテ上中流區域ハ兩岸懸崖ヲ形成シ、水淺ク加之曲折甚シク舟楫ノ便アルハ東諸縣

郡高岡村字山下以東トス。

### 第三節 交通

地形前述ノ如クナルヲ以テ通路縱橫坦々トシテ殆ンド車馬ノ通ゼザルナク鹿兒島縣本線吉松驛ヨリ分岐セル宮崎線ハ已ニ開通シ交通頗ル便ナリ。

### 第四節 氣候

氣候ハ東隣南那珂郡ニ比較シ氣溫稍々低ク其他ハ大差ナキヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス。

### 第五節 地質

本郡ヲ構成スル地質ヲ大別シテ水成岩及火山岩トシ更ニ之ヲ分類スルコト左ノ如シ。

#### 一、水成岩類

##### (一) 中生界

時代未詳ノ中生層

##### (二) 新生界

第四系

洪積統

二、火山岩類

(一)輝石安山岩

(二)火山泥流

(三)火山灰

一、水成岩類

(一)中生界

時代未詳ノ中生層

本層ハ主トシテ東部郡界ニ發達シ頁岩、砂岩ノ累層ヨリ成リ、走向北々西乃至北々東ヨリ南々東乃至南々西ニ走り西北又ハ西南ニ二十度乃至七十度ノ傾斜ヲナシ東部郡界ヲ劃シツ、南北ニ連亘シ南ハ有明灣ニ沒シ北ハ高城村大字四家ニ於テ一度火山灰ノ覆フ所ナルモ再ビ大開ノ北野尻川渡船場ニ至リ厚層ヲ爲セル火山灰下ニ顯ハレ尙北走シテ西諸縣郡小林町ノ北端ニ於テ下字形ニ分岐シ一ハ北走シテ主軸トナリ他ノ一ハ西走シテ所謂南部九州山系ノ西翼トナル。

本層ハ高城村大字四家ニ於テ輝安質母尼鑛及金鑛ヲ胚胎シ又骨岩山ノ南、縣道側ニ於テハ頁岩中ニ植物化石ヲ産スルモ保存不完全ニシテ識別スルヲ得ズ。

(二)新生界

第四系

洪積統

本層ハ其分布極メテ狭小ニシテ僅カニ高城村大字四家附近諸溪谷ノ低所ニ薄層ヲナシテ中生層ノ砂岩ヲ被覆スル火山泥流ト所々ニ火山灰質「ローム」層アルノミナリ。

沖積統

本層ハ大淀川其他ノ諸溪流沿岸ニ堆積シタル砂礫ニシテ稍廣大ナル地域ヲ占ム高城ノ西大淀川ノ沿岸ニシテ其他ハ極メテ狭小ナリ。

二、火山岩類

(一)輝石安山岩

本岩ハ西方郡界ヲ爲シテ山容壯嚴タル霧島活火山ヲ構成スルアルノミ而シテ本火山ニ對シテハ業ニ既ニ幾多ノ報文アルヲ以テ茲ニ之ヲ贊セズ。

(二)火山泥流

諸溪谷ノ低處ヲ占メ灰黑色ニシテ玻璃、斜長石、黑曜石及泥土ヨリ成ル火山噴出物ナリ而シテ現今一寸乃至五寸ノ薄層ナルモ恐クハ水ノ剝削作用ニヨリ浸蝕セラレタルガ爲ナルベシ。

### (三) 火山灰

本郡地質ハ殆ンド全部火山灰トイフモ不可ナク其ノ地域頗ル廣大ニシテ全面積ノ約四分ノ三ヲ占メ渺茫タル都ノ城平原ヲ構成ス而シテ高城村大字四家及高崎村字東霧島等ニ於テハ金鑛脈ヲ胚胎スル中生層ノ一部ヲ被覆セリ。

本層ノ漸次東部ニ薄ク西部ニ厚キハ之レ其原料ヲ西方霧島火山ノ噴出ニ仰ギタルガ爲メナルベシ。

### 第六節 鑛物

本郡ニテハ殆ンド金鑛アルノミナリ。

金鑛ハ高城村大字四家ニ其ノ鑛床アリ、二百年前ニ稼行シタルコトアリト傳ヘラル其ノ後明治二十年頃ニ熊本人某ニヨリ稼行セラレタルモ幾何モナク中止ス、其ノ後現鑛業權者ノ有トナル、中生層ノ砂岩、頁岩ノ累層ニシテ鑛床ハ其ノ中ニ胚胎セル鑛脈ナリ、岩層ノ走向ハ北三十度東ニシテ西北方ニ六七十度傾斜ス石英脈殆ンド之レニ平行シテ入り幅極メテ薄ク合金率百萬分ノ二乃至三ニ過ギズ。

前記ノ鑛床ニ隣リテ嘗テ安質母尼鑛ヲ稼行シタル鑛床アリ、砂岩ヲ上磐トシテ頁岩ヲ下磐トスルモノニシテ母岩ニ平行シテ介在セル扁桃狀鑛床ナルガ漸次石英脈トナル傾キアリ。

百萬分ノ二内外ノ金分ヲ含有ス或ハ前記ノ金鑛床ト同一鑛床ナラザルカトモ思ハル尙ホ探鑛ヲ進メザレバ如何ニ變化スルカ不明ナリ、現今ノ状態ニテハ餘リ豊富ナラザルモノト認ム。

## 第八章 南那珂郡

### 第一節 位置

本郡ハ縣ノ南端ニ位シ東ハ日向洋ニ面シ西ハ鹿兒島縣噺噺郡ニ隣シ南ハ有明灣ニ望ミ北ハ宮崎、北諸縣ノ兩郡ニ接シ東西約六里南北約十二里面積約六千方里ヲ占メ縣廳所在地タル宮崎町ヨリ郡中央飯肥町迄ハ陸路約十三里、都ノ城ヨリ約十四里ニアリ。

### 第一節 地形

四國ヲ横斷シ四國山系ノ南部ヲ占領スル山脈ハ中生層ニ屬シ頁岩、砂岩ノ累層ニシテ其走向東々北ヨリ西々南ニ亘リ西走シ豊後海峽ニ至リ一度其影ヲ沒スルモ再ビ豊後ノ東岸ニ顯出シ南方灣曲趨走スルモノ之レ即チ日向山脈トス。

日向山脈ハ東諸縣及宮崎ノ兩郡ヲ縱斷シ鰐塚山(一、一一九、二米)柳嶽(九五二、二米)牛ノ峠(六八三米)等ノ諸峯ヲ爲シテ北諸縣南那珂ノ兩郡ヲ劃シツ、南走シテ南那珂郡福島村字高松ノ西ニ於テ有明灣ニ沒ス而シテ末吉ノ東、金御嶽(四二〇、六米)ヨリ高城ノ北ヲ通ズル線ヨリ以西ハ都ノ城平原ヲ構成スル火山灰ノ覆フ所トナリ山軸以東即チ本郡ニ屬スル部分ハ漸次東方ニ陵夷シテ第三紀古層タル頁岩、砂岩ニ移過シ油津港ノ北ニ注グ、廣戸川横谷ノ爲メニ西北ヨリ東南ニ走ルニ支脈ニ分タル一ハコエジ峠(七八九、八米)丸尾山(七



三七、六米)ト爲リ鶴戸村字大浦ノ西南ニ至リテ日向洋ニ没シ他ノ一ハ柳嶽ヨリ分岐シテ男鈴山(七三八、四米)鹿久山(四八五米)等ヲ爲シ榎原附近ニ於テ一度卓子原ヲ爲セル火山灰ノ覆フ所トナルモ鯛取山(三六六、九米)ニ於テ再ビ其ノ山骨ヲ顯シ南走シテ都井岬ニ至リテ盡ク。

島嶼、油津港ノ東ヨリ畧子午線狀ニ散點セル小島嶼ハ小場島ヨリ大島、築島ヲ經テ幸島ニ至ル而シテ最大ナルハ大島ニシテ東方ニ傾ケル第三紀單層ヨリ成リ庇狀ヲ呈シ西岸ハ絶壁ヲ形成シ一韋帶水ヲ距テ、本陸東岸ノ絶壁ニ相對シ其間一ノ陷沒帶タルヲ暗示セリ、都井岬ノ西海岸ニハ只巒垂島アルノミニシテ西北ニ單斜ヲナシ地形前者ト正反對ナリ

港灣、沿岸ニ於テ港灣ト稱スベキハ東海岸ニ於ケル油津港及南海岸ニ於ケル福島港ノ二アルノミナルモ前者ハ港内水淺ク且ツ暗礁點在シ後者ハ遠淺ナルヲ以テ共ニ大船ノ出入ニ便ナラズ唯將來望ヲ屬スベキハ水深ク風波ナキヲ以テ嘗テ海軍省ニテ注目シタリト稱セラル、南郷村字外ノ浦アルノミナルモ僅ニ漁業ヲ事トスル一寒村ニシテ今ハ單ニ風波ノ際汽船難避港タルニ過ギズ。

河川、廣戸川ハ其源ヲ日向山脈東側ノ高峯山假屋及大戸野ニ發シ南流シテ坂元川其他ノ諸溪流ヲ聚メ更ニ蛇流シテ東川トナリ一里松ノ東ニ至リ別ニ源ヲ酒谷村ニ發スル酒谷川ヲ併セ油津港ノ北、梅ヶ濱ニ於テ日向洋ニ注グ、而シテ其幹流タル東川ハ僅ニ宿野以南ニ於テ揖筏ノ便アルノミ。

福島川ハ其ノ源ヲ大東村ノ北端ニ發シ南流シテ上町ニ至リ別ニ源ヲ大牟取ニ發シ殆ンド並流スル矢取川ヲ

併セ尙ホ南流シテ福島ニ至リ有明灣ニ注グ。

細田川ハ塚田ニ發シ南流シテ萩ノ嶺ニ至リ其方向ヲ轉ジテ東シ堀切ノ南ニ於テ南郷川ヲ併セ目井津ニ至リテ日向洋ニ注グ。

### 第三節 交通

本郡ノ交通機關トシテハ唯一ノ馬車ニ據ル外ナク宮崎町ヨリ飲肥町及福島ヲ經テ鹿兒島縣噲啖郡ニ通ズル縣道ヲ郡ノ主要道路トシ更ニ之ヨリ分岐セル二三ノ縣道アルノミニテ飲肥町以北ハ地形峻嶮ナルヲ以テ道路蜿蜒々曲折シ飲肥町以南ハ稍々平坦ナルモ福島ヨリ鹿兒島縣噲啖郡ニ通ズル間ハ海濱ノ斷崖ヲ迂回シ共ニ交通便ナリト言ヒ難ク鹿兒島本線吉松驛ヨリ分岐シテ都城ヲ經宮崎町ニ至ル鐵道ハ既ニ開通シタルモ本郡ハ毫モ其恩惠ニ浴スルヲ得ザルヲ遺憾トス、唯飲肥、油津間縣營輕便鐵道ノ開通シアルノミ。

### 第四節 氣候

本郡ハ縣ノ熱帶ト稱セラレ盛夏ノ頃ハ氣溫華氏九十五、六度以上九十七、八度ニ昇ルコト亦珍シカラズ現ニ調査當時(四月中旬)業ニ既ニ稻苗ノ伸長約一寸ニ達セル所テリ眞ニ熱帶ノ稱ニ背カス、例年十、十一月ノ交ハ雨少ナケレドモ六、七月ノ頃ニ至レバ降雨頗ル多ク晴雨何レカニ偏スルノ傾アリ冬期ハ積雪結氷ヲ見ルコトナシトイフ。

### 第五節 地質

本郡ヲ構成スル地質ヲ大別シテ水成岩及ビ火成岩トシ更ニ之ヲ分類スルコト左ノ如シ。

一、水成岩類

(一)古生界

秩父古生層下部

(二)中生界

時代未詳ノ中生層

(三)新生界

第三系

第四系

洪積統

沖積統

二、火山岩類

(一)輝石安山岩

(二)火山泥流

(三)火山灰

一、水成岩類

(一)古生層

秩父古生層下部

郡内ニ於テ本層ト認ムベキ岩層ヲ發見セザリシモ都井ノ東、宮ノ浦川ニ於テ淡綠色ニシテ片狀理完全ナル千枚岩片ヲ見タリ意フニ本川ノ上流何レニカ其岩体ノ露出アルベク他日ノ參考トシテ之ヲ記述ス。

(二)中生界

時代未詳ノ中生層

西諸縣郡紙屋附近ニ於テ火山灰ニ被覆セラレハ本層ハ頁岩、砂岩ノ累層ニシテ宮崎郡田野村附近ニテ再ビ火山灰ノ覆フ所トナルモ幾干モナクシテ其山骨ヲ顯ハシ大戸野ノ北方ニ於テ本郡ニ入り其層向北々東ヨリ南々西ニ走り東南ニ約三十度ノ傾斜ヲ爲シ飲肥川ノ上流新村附近及福島村字高松ノ西ニ於テハ一般層向前者ト大差ナシト雖ドモ其傾斜全ク相反スルヲ以テ恐クハ兩者ノ間ニ一大背斜軸存在スルモノナルベク而シテ鹿兒島縣噲啖郡夏井ニ至ル海濱ニ斷崖ヲ爲シテ露出スル本層ハ横壓力ノ爲メ甚シク皺曲作用ヲ受ケ地層錯亂シ波狀ヲ爲シテ其層向一定セズ又南郷村字多羅ヶ平海濱ニ露出セル本層ハ第三紀古層タル蠻岩質砂岩ヲ以テ不整合ニ覆ハル、頁岩砂岩ノ互層ヨリ成リ其層向北三十度東、西北ニ約六十度斜下セリ。

本層生成ノ時代ニ就テハ踏査ノ際化石ヲ發見セザリシヲ以テ之ヨリ之ヲ確定スルニ由ナキモ第三紀古層ノ

岩層ニ比較スルニ本層ハ大島ニ於テ「オバーキユリナ」ヲ含有シ第三紀古層ト推定シタル頁砂岩ニ相當セル岩層ノ下ニ位シ其層位上ヨリ來リタル推考ト且ツ該岩層ニ比較シ古觀ヲ呈スルノ故ヲ以テ假リニ中生層ト爲シタルモノニシテ或ハ本層ノ一部ニシテ第三紀古層タルモノナキヲ保セズ。

(三) 新 生 界

第三系

本層ハ郡ノ大部ヲ占メ頁岩、砂岩ノ累層ニシテ北諸縣郡界以東ニ連亘セル中生層ヨリ漸次本層ニ移過シ其ノ走向概ネ南北ニ近ケレドモ傾斜ハ東又ハ西ニシテ所々ニ大小幾多ノ背斜及向斜層ヲ爲スモノ、如ク細田村大堂津ニ於テハ走向北二十度西、東北ニ約六十度斜下シ頁岩質炭層ヲ介在シ南郷村目井津字一本鎗ニ於テハ厚キ砂岩中ニ頁岩質炭層ヲ介在シ走向北二十五度東、南二十五度ノ傾斜ヲナシ福島ノ西、長濱ノ海濱ニ於テハ砂岩中ニ比較的良質ノ炭層ヲ介在シ其走向北七十度東北方ニ約二十度ノ傾斜ヲナセリ而シテ大堂津山頂(俗稱香屋)都井村字宮ノ浦其他數ヶ所ニ多數ノ化石ヲ産スルモ多クハ印象不完全ニシテ識別シ得タルハ僅カニ左ノ如シ。

大堂津山頂ノ砂岩中ニ存スルモノ。

- 一、蜆 貝
- 一、珊瑚 類

一、魁 蛤 大堂津炭層ノ母岩中ニ産ス

一、田 螺(?)

一、帆 立 貝

一、玉 貝

尙蘆類(?)ノ地下莖ヲシキモノアリタルモ詳ナラズ。

都井村字立字津、黄金瀬島間ノ海岸砂岩中ニ産スルモノ。

一、文 蛤

一、蛤 仔

一、玉 貝

本城村字遍保ヶ野附近砂岩中ニ産スルモノ。

一、丸 角 貝(?)

前記ノ化石ハ何レモ其ノ時代ヲ確定足ルニ足ルベキ標準化石ニアラザルモ博士大塚專一氏ハ大堂津ノ南端大島ニ於テ「オバーキユリナ」虫ノ化石ヲ發見シタルニ徴スレバ恐クハ第三紀古層タルベク漸次中生層ニ移過シ區劃スベカラザル所アルヲ以テ見レバ或ハ始新期ノ生成ニアラザルナキヤ而シテ化石ヲ徴スルニ香屋山頂ヲ構成スル砂岩ハ當時入江ヲ形成セル半鹹半淡ノ水底ニ沈澱シタルモノ、如シ。

第四系

洪積統

本郡ニ於テ洪積層ト認メラル、ハ本城村湊附近ニ於テ丘陵ヲナセル火山灰質墟垣及諸溪谷ノ低所ヲ占ムル火山泥流ニシテ其ノ分布頗ル狭小ナリ。

沖積統

本層ハ廣戸川、福島川其他溪流沿岸ニ堆積シタル泥砂及所々ニ小岳ヲナセル砂礫層ニシテ前者ハ主トシテ耕地ヲ占メ現今一里松及福島附近ニ於テ稍廣大ナル耕地ヲナスハ前記ノ諸川汎濫シ泥砂ヲ押シ流シタルニ依リ生成セラレタル砂洲ニ外ナラザルベシ

二、火山岩類

輝石安山岩

本岩ハ大東村字眞萱ニ中生層ヲ貫通セル小露出アルノミ、而シテ石基ハ微晶質ニシテ一部玻璃質ヘ雜ヘ砂長石、輝石及磁鐵鑛ヲ散點ス

火山泥流

諸溪谷ノ沿岸ヲ占メ其分布極メテ狭小ナリ。

火山岩

鉄肥沿岸及榎原以南福島地方ニ發達シ灰白色浮砂及火山灰ヨリ成リ多クハ卓子原ヲ爲セリ。

第六節 鑛物

本郡ノ鑛物ハ主トシテ第三紀層ノ石炭ナリ露頭ノ所在地ハ鉄肥町大字板敷字荒平北郷村大字下方字堀切、大堂津、市木村字夫婦浦、南郷村字深邊ノ海岸、本庄村大字崎田字永田、同村大字本庄字尻無、同村字熊ヶ峰、同字石ヶ野、福島村大字高松字長濱、同村大字奴久見字葛ヶ迫、北方村大字北方字谷ノ口、同村大字南方ノ濱垂島、都井村大字宮ノ浦ニアリ。

此地方ニ於テ石炭ヲ發見シタルハ數十年前ノコトニシテ一時海軍ノ豫備炭田タリシコトアリ之レヲ解除シテ後、福島村字長濱ノ海岸、葛ヶ迫、北河内村、宿野、細田村、大堂津字後屋敷、同字塩鶴、南郷村深邊等ニ於テ試掘又ハ試錐ヲナシタルコトアレドモ今ハ事業ヲ爲シ居ルモノナシ。

何レモ第三紀ノ砂岩、頁岩ノ間ニ介在スル處ノ薄キ炭層ニシテ厚サ二三寸ヨリシテ七八寸位マデノモノ多ク、唯ダ長濱海岸ニ於ケルモノト、大堂津後屋敷ト北河内村字宿野ニ於ケルモノトハ二三尺ノ厚サヲ有スレドモ何レモ變動ヲウケ居ルコト甚ダシク或ハ僅々數間ニシテ尖滅スルアリ。

獨リ宿野ニ於ケル石炭ハ稍良質ナリシモ一局部ニノミ存在セシモノカ掘進ト共ニ其ノ跡ヲ消失セリ、斯クノ如キ状態ナルヲ以テ一定ノ岩層ノ賦存スル狀況ヲ確ムルコト能ハズ。福島村ノ平原ニ於テハ多少地層ノ變動少キ様ナレドモ奴久見、葛ヶ迫ノ山地ニ入ル時ハ同様ニ地層ノ變動

激甚ナルモノアリ、長濱ノ海岸ニ於テハ地層ハ北方即チ陸ノ方ニ向ツテ二十度乃至三十度ノ緩傾斜ニテ傾キ炭層モ稍々見ルベキモノアル様ナレバ此ノ附近ニ數箇所ノ地點ヲ選ビテ地下數百尺ノ地點マデ試誰セバ地下ノ炭層ノ狀況ヲ知ルコトヲ得ベシ、又福島村上町ヨリ今町マデノ間ニ至ル平地ニ於テ數箇所ニ試誰セバ又地下ノ炭層ノ存否及ビ地層ノ狀況ヲ知ルコトヲ得ン。  
目井津、大堂津附近ハ海邊ニアリテ運搬ニハ頗ル利便ナル所ナルヲ以テ若シ炭層アリトセバ大ニ利スル所アルベシ。

### 第二編 結論

之ヲ要スルニ本縣產出ノ鑛物中將來發達ノ見込アルモノハ金屬鑛ニシテ銅、錫、安質母尼、亞鉛、金、銀重石等ナリ、多クハ高峻ナル山嶽ニアルヲ以テ之レガ開發ヲ促進スルニハ先ヅ以テ交通ノ利便ヲ計ラザルベカラズ、從ツテ之レガ探鑛ハ勿論物資ノ運搬供給上ニモ幾多ノ便益ヲ得ルヲ以テ事業家ハ此ノ方面ニ着眼シテ漸次探鑛若クハ探鑛ニ投資ヲ惜マザルベキハ理ノ見易キ所ナリ故ニ鑛業開發ノ上ニ於テ第一ノ急務トスル所ハ可成早ク道路ヲ改善又ハ開鑿シ交通ノ利便ヲ計ルニアリ。

## 宮 崎 縣

大正六年十二月十二日印刷  
大正六年十二月十八日發行

宮崎縣宮崎町大字上別府四百貳拾八番地  
印刷人 日 高 善 七  
印刷所 野 井 活 版 所

326  
297

大正六年十一月十八日  
大正六年十一月二十一日

宮田

向  
人  
日  
月  
年

終

